

消防 50 年のあゆみ

～ 安全・安心 つながる未来へ～



淡路広域消防事務組合

淡路消防の歌

作詞 南 茂広
作曲 柏木英樹

一 情け溢れる故郷は 笑顔眩しい神の島

歴史と幸は渡すまい 身命賭して災禍から

陰に日向に鍛えし心技

いざ 淡路消防 貫く使命

二 瀬戸の波間に陽が沈み 灯す団らん街あかり

しあわせ色の夢と愛 紅蓮の炎から守るため

日ごと夜ごとの点検整備

いざ 淡路消防 貫く使命

三 人の命の尊さに 勝る宝は他に無し

雨風雪も何のその 章旗のほこり胸高く

西に東に寸秒惜しみ

いざ 淡路消防 貫く使命



な さ け あ ふ れ る ふ る さ と は
え が お ま ぶ し い か み の し ま
れ き し と さ ち は わ た す ま い
し ん め い と し て さ い か か ら
か げ に ひ な た に き た え し し ん ぎ
い ざ あ わ じ し ょ う ぼ う つ ら ぬ く し め い



目次

第1章	管内の概要・構成市の紹介	8
第2章	組織・消防庁舎の紹介	18
第3章	消防業務の紹介	24
第4章	消防車両50年の歴史	30
第5章	消防50年の歴史	40
第6章	消防50年の災害	48
第7章	消防50年の表彰・感謝状	54
第8章	資料・統計	56

ごあいさつ

当事務組合は、昭和48年1月に設立され、今年で設立50年の節目の年を迎えるに至りました。長きにわたる関係機関のご理解とご協力に深く感謝を申し上げます。

この半世紀の間、消防組織を取り巻く環境は大きく変化し、平成3年の救急救命士法制定と平成7年の阪神淡路大震災を踏まえた広域応援体制の確立は、組織強化を図る上での大きな転機となりました。近年においては、住宅用火災警報器の設置義務化など、業務の影響範囲は一般家庭内にまで及び、住民から寄せられる期待も大きくなるばかりです。

住民の社会活動、生活様式の多様化は、今後も続いていくものと予想され、複雑化する災害形態に対して、発生を未然に防ぐことも含めて、しっかりと対応を図っていく必要がございます。

これからも住民の更なる支持を得て、変わらぬ活躍ができるように、組織・職員が一体となって全力をあげて消防・防災に取り組み、未来に向けて歩いていく所存です。

関係各位には、今後ともご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

管理者



洲本市長
上崎 勝 規

ごあいさつ

このたび、淡路広域消防事務組合が発足し50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

日夜を問わず、住民の生命と財産を守り続ける消防職員の皆様には、心より敬意を表しますとともに深く感謝を申し上げます。

当組合議会は、淡路島民を代表して淡路広域消防事務組合の運営を見守り、議事機関として必要な進言も行い、ともに年月を歩んでまいりました。

同消防事務組合は、昭和48年に当時の淡路島1市10町を構成団体として発足し、時代にあわせた拡充を図りながら、現在の体制へと至っております。

淡路島の住民は、阪神淡路大震災の経験と南海トラフ地震の発生に備える危機意識を併せ持ち、防災への関心は高く、消防に寄せられる期待も大きなものとなっております。

消防職員の皆様には、限られた資材・人員の中、創意工夫による効果的な活動をお願いしているところではありますが、更なる知識・技術の向上を図り、地域防災の牽引者として住民の負託に応えていただくことを切に願っております。

関係各位の更なる飛躍を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

議会議長



淡路市議会議長
土井 晴 夫

副管理者



南あわじ市長
守 本 憲 弘



淡路市長
門 康 彦

令和5年10月1日現在

消防50周年ロゴマーク



このロゴマークは淡路広域消防事務組合発足50周年を記念し、職員の応募の中から選出されたものです。

【 For the Safety of AWAJI Island 】 淡路島の安全のために

日本で最古の歴史書『古事記』（712年）の冒頭を飾る「国生み神話」。
そこに記されるのは、国生みの島・淡路島。

伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）の
二柱の神様によって生まれた日本で最初の島。

この特別な淡路島を、全員で1つの輪になって守り抜くという意志を込めて
レスキューをイメージさせるオレンジ色の輪で囲みました。

また、島の豊かな自然をエメラルドグリーンで
島を囲む青い海をセルリアンブルーで表現しています。

組合章はゴールドにし、淡路島の西側に入れました。
これは、国生み神話に登場する伊弉諾尊が入り日（夕陽）の神様であることと
「日本の夕陽百選」にも選ばれる淡路島の夕陽をイメージしています。

淡路島の伝説を 淡路消防の伝統を 未来へ

第1章

管内の概要・構成市の紹介



～安全・安心 つながる未来へ～



淡路広域消防事務組合 管内の概要

当消防本部が管轄する淡路島は、瀬戸内海国立公園の東部に位置し、南北55km、東西28km、周囲203kmの細長い島です。総面積は595.63km²で兵庫県の面積の7.1%を占めており、北部には津名丘陵が南北に走り、その東西はいずれも傾斜地で海岸線に若干の耕地を形成しています。

中部から南部にかけては島内最大の平坦地である三原平野が広がり、洲本川、三原川が流れています。

南部は淡路最高峰の諭鶴羽山(608m)を有する諭鶴羽山地が東西に走り、断崖絶壁の海岸線を形成しています。

昭和60年6月に大鳴門橋が開通、平成10年4月には明石海峡大橋が開通し、淡路島は本州、四国と陸続きで結ばれました。

気候は冬季温暖で年間を通じて降水量の少ない瀬戸内海気候に属しています。

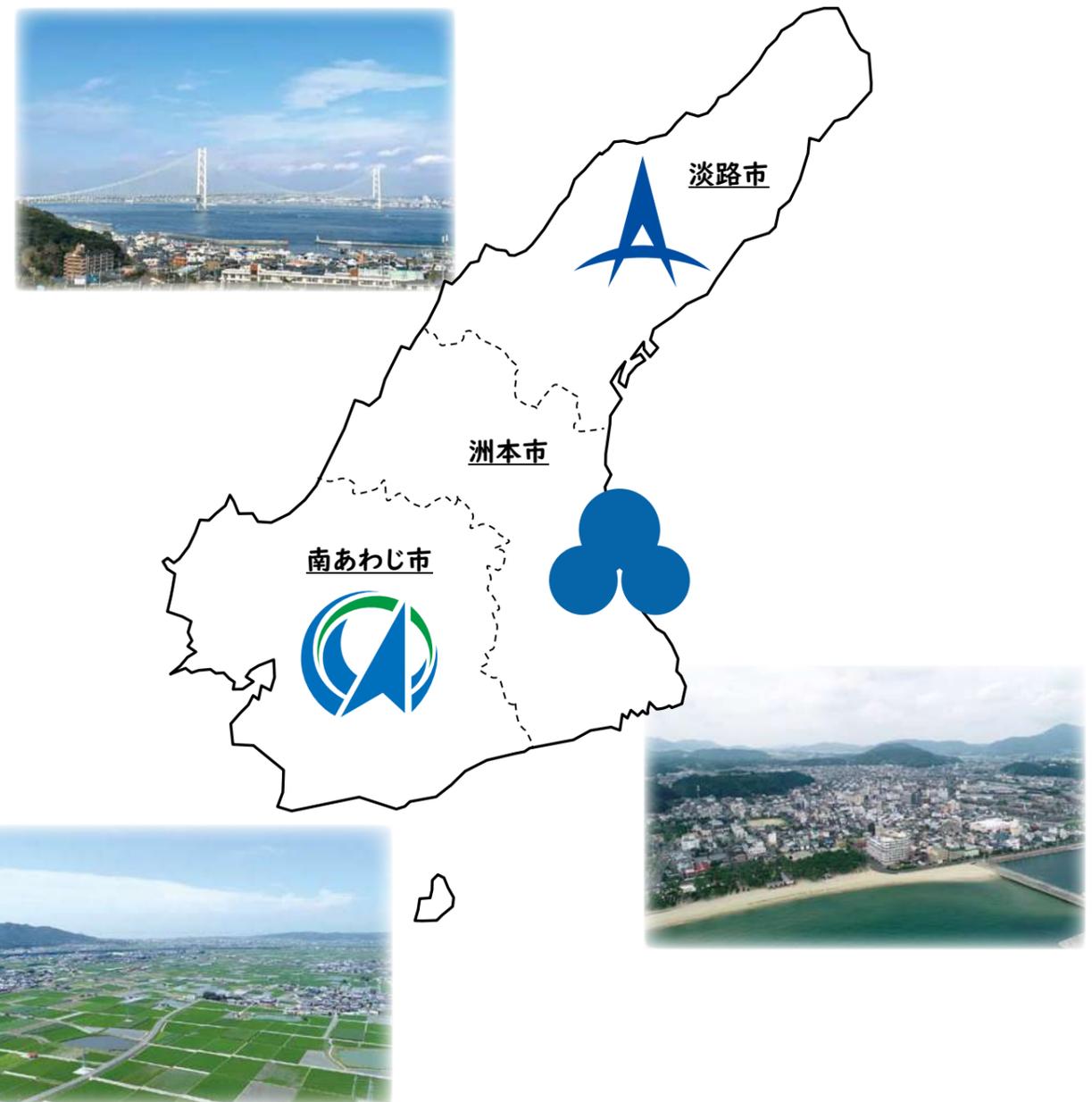


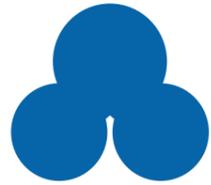
市名	面積	人口	世帯数
洲本市	182.38	41,614	20,289
南あわじ市	229.01	44,795	19,836
淡路市	184.24	42,190	20,332
合計	595.63 km ²	128,599 人	60,457 世帯

※ 人口及び世帯数は、住民基本台帳によるもの

※ 面積は、国土地理院面積調べによるもの

令和5年1月1日現在





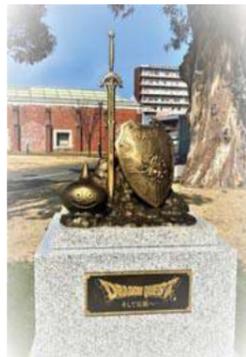
洲本市

洲本市は、淡路島の中央部に位置し、明治以降、中世、近代を通じ、文字どおり「島都」として栄え、政治、経済、歴史、文化、教育の中心都市としての役割を担っています。

また、本州と四国を結ぶ大動脈である神戸淡路鳴門自動車道が南北に縦断するほか、島内の幹線である国道28号や、主要地方道である県道洲本五色線、鳥飼浦洲本線などが地域拠点間を結んでおり、加えて、高速バスや島内路線バスの発着点である洲本バスセンターも有するなど、交通の要衝としても重要な役割を担っています。

市の中央に「淡路富士」とも称される標高448mの先山がそびえ、大阪湾に面する東側の市街地は、今なお江戸時代の城下町の趣を残し、「続日本100名城」にも選ばれ、市のシンボルである洲本城からは、市街地のみならず、紀淡海峡をも一望できます。また、南側の由良沖には、南北約3km、最も狭い場所では幅約15mの無人島、成ヶ島が浮かび、その姿から「淡路橋立」とも称されています。一方、播磨灘に面する西側の五色地域は、沿岸部には夕日が映える美しい海辺の風景が、また、なだらかに広がる丘陵部には数多くのため池が点在するなど、のどかな田園風景が広がっています。

市内には、洲本城を抱く三熊山、白砂青松の大浜海岸、五色の小石も眩い五色浜など、瀬戸内海国立公園の指定地域として、豊かな自然環境が今も維持されているとともに、洲本温泉やウェルネスパーク五色・高田屋嘉兵衛公園などの観光施設、淡路文化史料館や洲本市文化体育館などの教育・文化施設、さらには、県立淡路医療センターなど、都市機能が集積しています。また、阪神間からも近い「トカイナカ」として、近年、需要が高まっているコワーキングスペースを充実させるなど、これからも新しい暮らし方や働き方を提案してまいります。



ドラゴンクエスト誕生30周年記念碑

ドラゴンクエストの生みの親である堀井雄二氏の生まれ育った地、洲本市。市街地の中心にあり、多くの市民が集い、憩う市民広場の中に建つ記念碑。冒険の物語の象徴とともに、氏の輝かしい功績を後世に語り継いでいきます。



「なのは」 ©洲本市 2015

洲本市公式キャラクター「なのは」

プロフィール

- 【名前】なのは
- 【属性】菜の花の妖精
- 【誕生日】7月8日
- 【性格】明るく元気いっぱい
- 【好きなもの】みんなの笑顔

洲本市立淡路文化史料館キャラクター「ナギィ」

プロフィール

- 性別 男の子
- 誕生日 7月15日(史料館の誕生日と同じだよ)
- 出身地 洲本市
- 性格 のんびりやさん
なんにでも興味津々！
でもちよっとおっちょこちよい
淡路島が大好き
- 趣味 散歩
- 好きな場所 洲本城・大浜海岸
- 好きな食べ物 はっぱ



許諾番号 2023-01



南あわじ市

南あわじ市は、淡路島の南部、兵庫県の最南端に位置し、その面積は229.01km²で、淡路島の約38.4%、兵庫県域全体の約2.7%を占めています。温暖な気候と肥沃な土地を生かし、京阪神への「食」の供給拠点として大きな役割を担っています。

市の中央を走る神戸淡路鳴門自動車道により、明石海峡大橋を経て60km圏の神戸まで自動車で約60分、80km圏の大阪までは約90分でアクセスできます。また、徳島県と大鳴門橋を挟んで隣接しています。南部と西部はそれぞれ紀伊水道、播磨灘に面し、北部の先山山地、南東部の諭鶴羽山地、西の南辺寺山塊に囲まれ、中央部には三原平野が広がっています。また、紀淡海峡には周囲約10km、人口約400人の沼島が浮かんでいます。

三原平野では、恵まれた気候条件に加え高度な農業技術を生かして三毛作が営まれており、淡路島たまねぎをはじめ、レタスなどの生鮮野菜が京阪神地区へと出荷されています。また、酪農・畜産も盛んであり、「淡路島牛乳」と「淡路ビーフ」は全国的な知名度を有するブランドにまで成長を遂げています。

播磨灘や鳴門海峡などからは、新鮮な魚介類が多く水揚げされており、養殖技術も生かして、ノリやワカメ、タイ、フグ、サクラマスなど多くの特産品が出荷されています。また、世界最大級の大きさを誇る「鳴門海峡の渦潮」や500万本の水仙が壮観な「灘黒岩水仙郷」、500年の歴史をもつ「淡路人形浄瑠璃」など観光資源も豊富で、訪れる観光客を楽しませています。



淡路島たまねぎ

南あわじ市に広がる「淡路島たまねぎ」の畑。「淡路島たまねぎ」は、他地域産のものとは比べ、糖度は4%程度高く、やわらかさは約2倍の差があるといわれています。



鳴門海峡の渦潮

鳴門海峡の渦潮は世界最大級の大きさを誇る一大観光地であり、豊富な栄養分を育んでくれる源でもあります。渦潮を世界遺産に登録すべく、さまざまな活動が行われています。

淡路人形浄瑠璃

500年の歴史を持つ淡路人形浄瑠璃。哀歓の人間模様を生き生きと表現する人形たちが織りなす舞台芸術の粋が人々を魅了し続けます。





淡路市

淡路市は、明石海峡大橋から訪れる人を迎える淡路島の玄関都市です。

力強く輝く太陽、温暖な気候、御食国と呼ばれる豊かな食材、阪神圏に近接し関西国際空港へも90分以内の立地などから多くの注目を集めています。

淡路島の北部から中部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を臨み、総面積184.24km²で淡路島全体の約3割を占めています。

本州と四国を結ぶ大動脈・神戸淡路鳴門自動車道が南北を貫通するほか、大阪湾沿いに国道28号、播磨灘沿岸に県道福良江井岩屋線、東西軸として県道富島久留麻線、県道志筑郡家線などが各集落を結んでいます。

地形については、旧津名・東浦町境の妙見山（標高522m）をはじめとして、地域の中央部を南北に貫く高原地帯が広がっていますが、西側はなだらかな斜面となっています。

河川については、山間・丘陵地を源流に、まとまった流域を有する河川が少ないのが特徴で、その分、貯水用のため池が数多く見られます。

自然環境に恵まれた地域であり、都会の風と島ならではの自然、両方を感じられることが自慢の一つとなっています。



市の花 カーネーション

県内でも有数の出荷本数を誇っており、市の特産品の1つとなっています。



明石海峡大橋

明石海峡大橋は橋長3,911m、中央支間長1,991mの世界最大級の吊橋です。昭和63年(1988年)5月に現地工事に着手し、およそ10年の歳月をかけて平成10年(1998年)4月に完成しました。



淡路広域消防事務組合章



消防章を淡路の木うばめがしの葉
11枚で囲み、さらに葉間を海でつなぎ
「愛と勇気と団結力」を表わします。



第2章

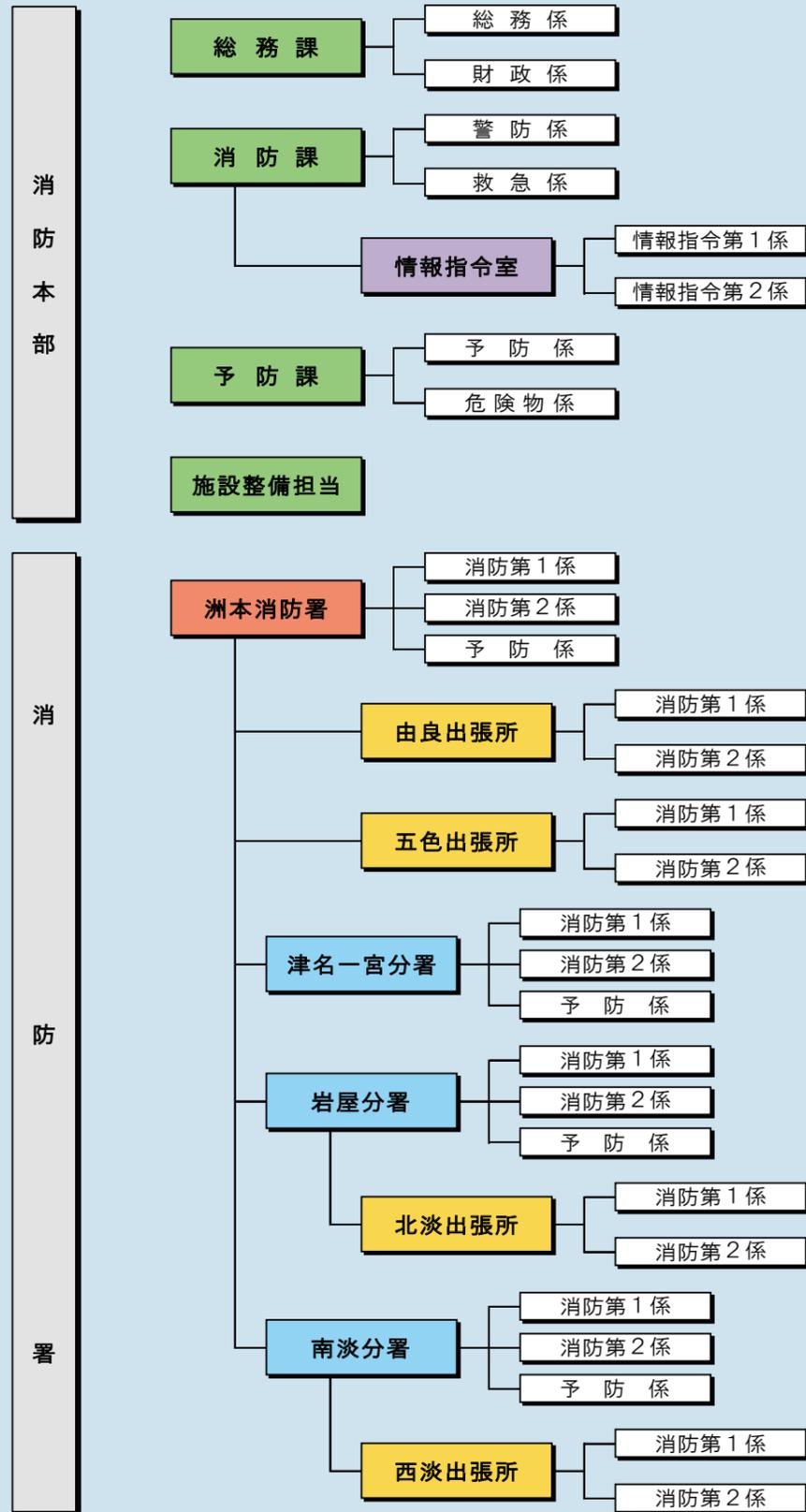
組織・消防庁舎の紹介



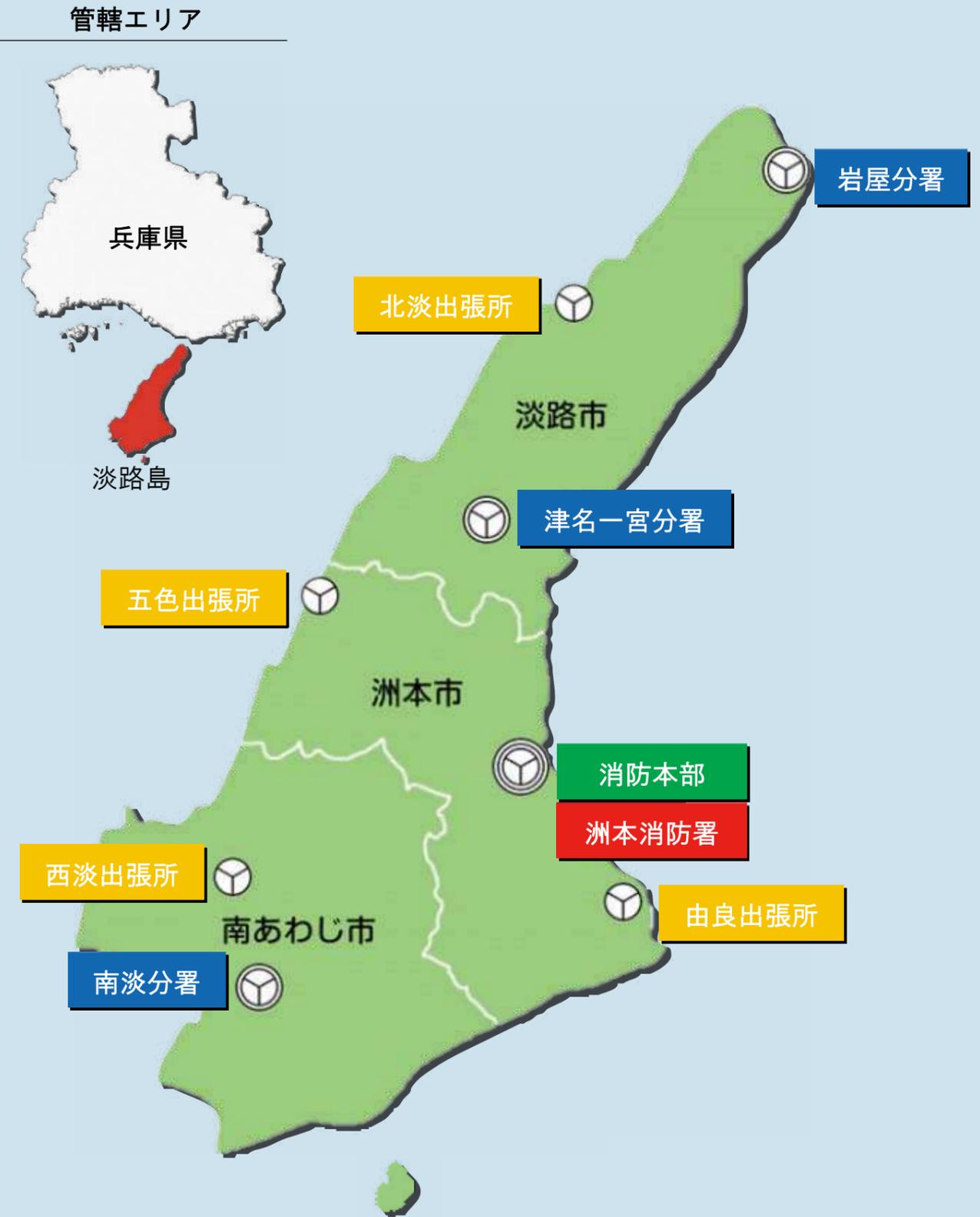
～安全・安心 つながる未来へ～

淡路広域消防事務組合組織図

令和5年4月1日現在



消防庁舎の紹介



消防本部・消防署



淡路広域消防事務組合消防本部・洲本消防署

【住所】兵庫県洲本市塩屋一丁目2番32号

【構造】鉄骨コンクリート造 4階建

【建築】平成28年2月

【配置車両】

指揮車	1台	小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)	1台
警防車	1台	消防ポンプ自動車(予備車含む)	2台
査察車	1台	化学消防ポンプ自動車(CAFS)	1台
総務車	2台	屈折はしご付消防自動車(25m級)	1台
支援車	1台	救助工作車	1台
防火指導車	1台	資機材搬送車	1台
予防連絡車	1台	高規格救急自動車(予備車含む)	2台



庁舎全景



屋上訓練場



情報指令室(高機能消防指令センター)

消防分署



津名一宮分署

【住所】兵庫県淡路市中田3724番地2

【構造】鉄骨コンクリート造 2階建

【建築】平成9年3月

【配置車両】

小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)	1台
小型水槽付消防ポンプ自動車	1台
高規格救急自動車	1台
連絡車	1台



岩屋分署

【住所】兵庫県淡路市岩屋2942番地16

【構造】鉄骨コンクリート造 2階建

【建築】昭和49年3月

【配置車両】

小型水槽付消防ポンプ自動車	2台
高規格救急自動車	1台
連絡車	1台



南淡分署

【住所】兵庫県南あわじ市賀集八幡29番地1

【構造】鉄骨コンクリート造 2階建

【建築】昭和49年3月

【配置車両】

小型水槽付消防ポンプ自動車	1台
消防ポンプ付救助車	1台
高規格救急自動車	1台
連絡車	1台



由良出張所

【住所】兵庫県洲本市由良町由良2353番地
 【構造】鉄骨コンクリート造 2階建
 【建築】令和3年3月
 【配置車両】
 小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)・・・1台
 高規格救急自動車・・・・・・・・・・1台



五色出張所

【住所】兵庫県洲本市五色町都志304番地4
 【構造】鉄骨コンクリート造 2階建
 【建築】昭和50年3月
 【配置車両】
 小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)・・・1台
 高規格救急自動車・・・・・・・・・・1台
 連絡車・・・・・・・・・・1台



北淡出張所

【住所】兵庫県淡路市育波478番地2
 【構造】鉄骨コンクリート造 2階建
 【建築】昭和50年3月
 【配置車両】
 小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)・・・1台
 高規格救急自動車・・・・・・・・・・1台
 連絡車・・・・・・・・・・1台



西淡出張所

【住所】兵庫県南あわじ市志知南15番地
 【構造】鉄骨コンクリート造 2階建
 【建築】昭和51年3月
 【配置車両】
 小型水槽付消防ポンプ自動車(CAFS)・・・1台
 高規格救急自動車・・・・・・・・・・1台
 連絡車・・・・・・・・・・1台

第3章

消防業務の紹介



～安全・安心 つながる未来へ～

警防



大切な生命と財産を突然奪う火災の脅威に冷静・的確な行動と最新の装備で立ち向かいます。また、火災原因を調査し、火災予防に努めます。



高度な応急処置を行える救急救命士と医師、看護師の乗せたドクターカーやドクターヘリと連携し、救命率の向上に努めます。



救急

AMBULANCE

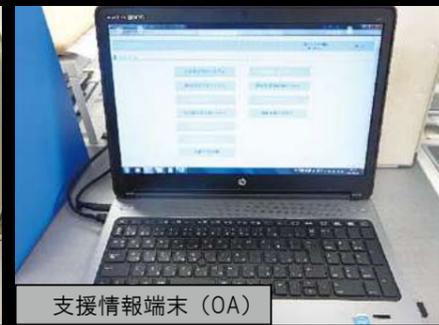
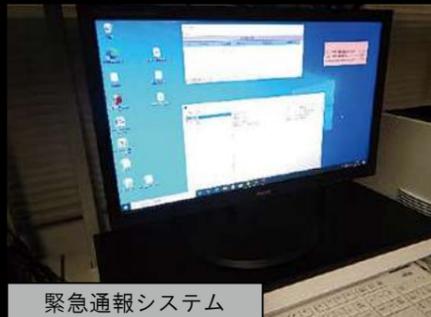
FIRE



救助に関する高度な知識、技術を身につけたスペシャリストたちが交通事故や自然災害など様々な災害現場で人命を救います。



119番通報の受付など複雑な情報をスムーズに処理する防災トータルシステムが迅速かつ的確な指令を行います。





大勢の人が出入りする建物や危険物施設などの立入検査の実施及び様々な行事を通じて火災予防を訴えます。



第4章

消防車両 50年の歴史



～安全・安心 つながる未来へ～

History



1973

日産 FH60
洲本市から譲り受けた車両

FIRE PUMP TRUCK

【名称】
小型水槽付消防ポンプ自動車
※別名:スモールタンク車

【寸法】
●高さ:2.70m ●幅:1.92m
●長さ:5.82m ●重量:6.795t
●乗車定員:5名 ●ポンプ性能:A-2級

【装備】
★安全機能付ポンプ操作盤(e-モニタ)
★小型水槽(800ℓ)
★圧縮空気泡消火システム(CAFS)
★可搬消防ポンプ(B-3級)



【特徴】

- ポンプ車は、消防車として広く知られており、消火活動の中心となる車両です。
- 「e-モニタ」というデジタルパネルでポンプ操作を管理し、安全機能も搭載しています。
- 他の消防車両と比べるとコンパクトであり、淡路島特有の狭い道路にも対応しています。



1982

イズス K-TLD46



1988

日産 BS-1



1995

三菱 KC-FE538B



2001

日野 KK-XZU331M



2007

日野 ADG-FD7JEW改
ポンプ付救助車



2012

日野 SKG-XZU640M



2015

トヨタ TKG-XZU685



CHEMICAL FIRE ENGINE



【特徴】

- 化学車には、2種類(水用と消火薬剤用)の水槽を備えています。
- 通常放水だけでなく、色々な消火薬剤を使用した泡放水で、ガソリンなどの危険物火災にも対応します。
- 工場火災などで車両が近づけない場合、車上放水銃で遠距離放水を行います。

【名称】
化学消防ポンプ自動車

【寸法】
●高さ:3.00m ●幅:2.33m
●長さ:7.13m ●重量:10.70t
●乗車定員:6名 ●ポンプ性能:A-2級

【装備】
★安全機能付ポンプ操作盤(e-モニタ)
★水槽(水:1300ℓ 薬液:500ℓ)
★圧縮空気泡消火システム(CAFS)
★加納式ホースカー(65mmホース×8本)
★車上放水銃



1994



日野 U-FD3HEAA改

1991



日産 U-CM87BE改

1989



三菱 P-FK417E改

History

1975



イズス SBR320

1978



三菱 FK-115DD



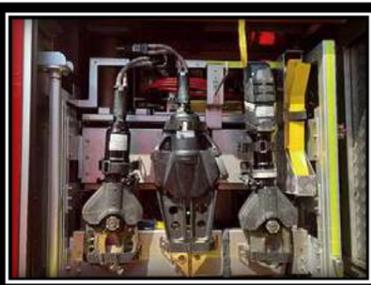
RESCUE VEHICLE



【名称】
救助工作車Ⅱ型

【寸法】
●高さ:3.18m ●幅:2.30m
●長さ:7.72m ●重量:11.63t
●乗車定員:6名

【装備】
★照明装置(SQEライトニングシステム)
★クレーン装置(最大吊上げ能力2.9t)
★フロントウインチ(最大直引き能力5t)



【特徴】
■特別救助隊(レスキュー隊)が乗る車両で、火災、交通事故、水難事故、山岳事故など様々な災害現場へ出動します。
■車両には合計200種類以上の資器材のほか、クレーンやウインチ、照明装置が装備された淡路島内に1台の車両です。



LADDER TRUCK



【名称】
屈折はしご付消防車

【寸法】
●高さ:3.64m ●幅:2.49m
●長さ:8.95m ●重量:16.40t
●乗車定員:6名

【装備】
★屈折式はしご(最伸長時、地上高26m)
★電動放水銃(バスケット先端)



【特徴】
■梯子車は巨大な梯子がついた車両で、中高層建物の火災などに出動し、高所での消火や救助活動を行います。
■くの字状の屈折式はしごは、電線などの障害物を避けることができ、建物の8階部分まで届きます。

History

1972



イズズ I型
洲本市から譲り受けた車両で、ポンプ付工作車として幅広く活躍した車両

1988



日野 II型
大型の照明装置が装備され、夜間の活動に機動力を発揮した。

1999



日野 II型 KK-GD1JGDA改
大型車の起用により地域事情に応じた山岳・水難事故等の資機材が充実した。

History

1967



イズズ
洲本市から譲り受けた車両

1978



三菱 FT112N改
30m級

2004



日産 FJ552LN
30m級

History

2018～

2007



1998



1997



1995



1994



1982



1973



1970



AMBULANCE



【名称】
高規格救急車

【寸法】
●高さ:2.49m ●幅:1.89m
●長さ:5.64m ●重量:2.77t
●乗車定員:7名

【特徴】

- 救急車は、ケガや病気で困っている人のもとへ駆けつけ、命を救うための処置をして、病院まで安全に搬送するための車両です。
- 「救急救命士」という特別な資格を持った隊員が乗っており、高度な応急処置を行います。



1992～
日産 T-CTGE24改

【名称】
指揮車

【寸法】
●高さ:2.42m ●幅:1.69m
●長さ:4.99m ●重量:3.22t
●乗車定員:8名

【装備】

- ★現場指揮用資器材
- ★可搬型デジタル無線機

【特徴】

- 指揮車は、災害出動で指揮を執る隊員が乗って出動する車両です。
- 主に火災現場などに出勤し、情報収集や作戦を立てることが役割となります。



資機材搬送車 2019～ トヨタ TKG-XZU685



【名称】
資機材搬送車

【寸法】
●高さ:2.41m ●幅:1.88m
●長さ:5.52m ●重量:6.325t
●乗車定員:3名 ●最大積載量:3.0t

【装備】

- ★テールゲートリフター(最大昇降質量:600kg)
- ★救助ボート(乗船人数:6名)
- ★船外機(9.8馬力)

【特徴】

- 資機材搬送車は、大規模または特殊な災害に対して救助ボートなどの様々な道具を現場へ搬送する車両です。



タンク車

History

1987



日野 2型

1997



日野 KC-FD1JEB改

2002



日野 KK-FD1JB
全天候型クラスA泡消化剤を積載、自動泡混合システムと1.5tの水槽を装備した車両

積載車

History

1973



トヨタ UP100改

1973



トヨタ RY10P-JAH改

1992



トヨタ T-YM60改
C-1級可搬式ポンプを積載し、山間部の多い出張所に配備された4WD車

1997



日産 GB-VTGE24
初めて導入したワンボックスタイプの積載車、C-1級可搬式ポンプを積載する

2003



トヨタ KK-LY280

2009



日野 BDG-XZU308M



1973～
トヨタ 連絡車

1973～
ホンダ 赤バイ



1997～
日産 GB-VTE24
査察車



1991～
三菱 R-C12V改
査察車



2003～
日産 UA-WFY11
査察車



1973～
トヨタ 警防車



2009～
ダイハツ EBD-S331V
連絡車

第5章

消防 50 年の歴史



～安全・安心 つながる未来へ～

1973 - 1977

昭和 48年 - 昭和 52年

昭和 48年 (1973)

- 1月 淡路広域消防事務組合設立
市町から事務職員5名の派遣を受け事務開始
淡路広域消防事務組合消防本部の設置
- 4月 組合職員定数133名、1本部、3課、1署、1出張所、2仮事務所で業務開始
- 7月 全国消防救助技術大会出場 (大阪府)
障害突破 はしご登はん ロープ登はん
ロープブリッジ渡過 ロープ応用登はん

昭和 49年 (1974)

- 5月 津名仮事務所、三原仮事務所を廃止し、淡路町岩屋に岩屋出張所、南淡町賀集に南淡出張所を開設し、業務開始
(1本部、3課、1署、3出張所)
- 7月 鳴門市消防本部と救急応援協定を締結
全国消防救助技術大会出場 (神奈川県)
ロープブリッジ渡過ロープブリッジ救出
ロープ登はん ほふく救出 障害突破
高所人命救助 平泳 浮遊物突破

昭和 50年 (1975)

- 4月 消防署機構改革 岩屋出張所を分署に昇格する
(1本部、2課、1署、1分署、2出張所)
- 5月 北淡出張所、五色出張所業務開始
(1本部、2課、1署、1分署、4出張所)
- 7月 全国消防救助技術大会出場 (東京都)
ロープブリッジ救出

昭和 51年 (1976)

- 4月 消防署機構改革 南淡出張所を分署に昇格する
(1本部、2課、1署、2分署、3出張所)
- 5月 西淡出張所業務開始
(1本部、2課、1署、2分署、4出張所)
- 7月 全国消防救助技術大会出場 (愛知県)
ロープブリッジ渡過



▲ 淡路広域消防事務組合消防本部 (昭和48年)



▲ 岩屋出張所 (昭和49年)



▲ 全国消防救助技術大会 (昭和48年)



▲ 全国消防救助技術大会 (昭和49年)



▲ 淡路広域消防事務組合消防本部 (昭和53年)



▲ 消防緊急通信指令施設 (昭和53年)



▲ 津名昼間救急分遣所 (昭和57年)



▲ 防火パレード (昭和57年)



▲ 大鳴門橋開通に伴う合同訓練 (昭和60年)

1978 - 1987

昭和 53年 - 昭和 62年

昭和 53年 (1978)

- 12月 消防本部庁舎完成
消防本部・洲本消防署、新庁舎移転業務開始

昭和 55年 (1979)

- 4月 組合職員定数を147名とする

昭和 57年 (1982)

- 11月 津名昼間救急分遣所業務開始
(1本部、2課、1署、2分署、4出張所、1分遣所)
防火パレード (秋の火災予防運動)

昭和 59年 (1984)

- 12月 西淡出張所救急業務開始

昭和 60年 (1985)

- 5月 鳴門市消防本部と消防相互応援協定を締結
- 6月 大鳴門橋及び淡路縦貫道の一部開通し鳴門市消防本部と共に橋上で訓練を行う

昭和 62年 (1987)

- 11月 淡路消防保安協会協賛による「火災予防全淡ゲートボール親善大会」
- 12月 河川情報システム運用開始

1988 - 1994

昭和 63年 - 平成 6年

昭和 63年 (1988)

- 8月 兵庫県広域消防相互応援協定を締結
大規模林野火災防ぎょ訓練
- 3月 (洲本市 柏原山)



▲ 大規模林野火災防ぎょ訓練 (昭和63年)

平成 元年 (1989)

- 11月 本州四国連絡道防災総合訓練
(洲本市納 道路公団敷地内)
- 12月 消防緊急通信指令施設 (II型) 運用開始



▲ 本州四国連絡道防災総合訓練 (昭和元年)

平成 2年 (1990)

- 9月 緊急通報システム運用開始



▲ 林野火災防ぎょ中継送水訓練 (平成4年)

平成 4年 (1992)

- 2月 林野火災防ぎょ中継送水訓練
(洲本市上内膳 先山)
- 8月 全国消防救助技術大会出場 (千葉県)
ロープブリッジ渡過



▲ 全国消防救助技術大会 (平成4年)

平成 5年 (1993)

- 4月 組合職員定数を162名とする
兵庫県衛星通信ネットワーク運用開始

平成 6年 (1994)

- 3月 兵庫県林野火災総合訓練 (洲本市由良町内田)
- 6月 淡路消防保安協会創立20周年記念大会
- 11月 五色出張所救急業務開始



▲ 兵庫県林野火災総合訓練 (平成6年)

1995 - 2001

平成 7年 - 平成 13年

平成 7年 (1995)

- 4月 消防本部機構改革で2課6係を2課8係に
改編する
救急救命士養成開始
- 7月 ドクターカー運用開始 (試行)
- 11月 北淡出張所救急業務開始



▲ 震災訓練 津名町生穂新島 (平成8年)

平成 8年 (1996)

- 1月 震災訓練 (津名町生穂新島)
- 4月 組合職員定数を172名とし、機構改革で
消防本部2課8係を3課8係に、署6係を
2係に改編する
- 10月 緒形直人、薬師丸ひろ子、田中邦衛らが出演
による阪神淡路大震災を教訓とした記録映画
「マグニチュード」の撮影が当消防本部を基
点に行われた



▲ 映画「マグニチュード」の撮影 (平成8年)

平成 9年 (1997)

- 4月 津名昼間救急分遣所を廃止し、津名一宮
出張所を開設、業務開始
(1本部、3課、1署、2分署、5出張所)



▲ 明石海峡大橋総合防災訓練 (平成10年)

平成 10年 (1998)

- 3月 神戸市消防局、鳴門市消防本部と本州四国
連絡道路消防相互応援協定を締結
明石海峡大橋総合防災訓練
- 4月 高規格救急自動車運用開始
携帯電話等からの119番通報受信開始、
緊急通報ファクシミリ運用開始



▲ 明石海峡大橋総合防災訓練 (平成10年)

平成 12年 (2000)

- 3月 ジャパンフローラ2000開幕 (救急詰所)



▲ ジャパンフローラ2000 (平成12年)

2002 - 2012

平成 14 年 - 平成 24 年

平成 14 年 (2002)

- 5月 日韓合同ワールドカップサッカー大会の開催にあたり、事前に集団災害事故を想定とした訓練を実施 (津名町佐野新島)
- 9月 兵庫県合同防災訓練 (津名町志筑新島)
- 12月 由良出張所救急業務開始

平成 15 年 (2003)

- 1月 淡路広域消防事務組合設立30周年
- 4月 消防署機構改革 津名一宮出張所を分署に昇格する (1本部、3課、1署、3分署、4出張所)

平成 16 年 (2004)

- 4月 高機能消防指令センター運用開始 組合職員定数を204名とする 消防本部機構改革で3課8係を4課8係に改編する (1本部、4課、1署、3分署、4出張所)
- 6月 淡路消防保安協会創立30周年記念大会

平成 19 年 (2007)

- 1月 消防技術練成会を開始

平成 20 年 (2008)

- 4月 携帯電話・IP電話発信位置情報通知システム運用開始

平成 22 年 (2010)

- 11月 淡路保安協会寄贈 (防火指導車)



▲ 集団災害事故想定訓練 (平成14年)



▲ 兵庫県合同防災訓練 (平成14年)



▲ 淡路消防保安協会創立30周年記念大会 (平成16年)



▲ 消防技術練成会 (平成19年)



▲ 淡路保安協会寄贈 (平成22年)



▲ 全国消防救助技術大会 (平成25年)



▲ 全国消防救助技術大会出場決定 (平成26年)



▲ 全国消防救助技術大会 (平成27年)



▲ 消防本部・洲本消防署新庁舎 (平成28年)



▲ 全国消防操法大会 (平成28年)

2013 - 2019

平成 25 年 - 平成 31 年

平成 25 年 (2013)

- 1月 淡路広域消防事務組合設立40周年
- 8月 全国消防救助技術大会出場 (広島県) ロープ応用登はん
- 11月 淡路広域消防事務組合設立40周年記念式典

平成 26 年 (2014)

- 6月 淡路消防保安協会創立40周年記念大会
- 7月 全国消防救助技術大会出場決定 (宮崎県予定) ロープ応用登はん ※広島県豪雨災害のため、大会中止

平成 27 年 (2015)

- 3月 新高機能消防指令センター運用開始
- 4月 消防本部機構改革で4課8係を3課8係に改編する (1本部、3課、1署、3分署、4出張所) 消防救急デジタル無線運用開始
- 8月 全国消防救助技術大会出場 (兵庫県) ほふく救出

平成 28 年 (2016)

- 2月 消防本部・洲本消防署新庁舎完成
- 3月 消防本部・洲本消防署新庁舎移転業務開始
- 10月 全国消防操法大会出場 (長野県) 南あわじ市消防団「ポンプ車の部」準優勝

平成 31 年 (2019)

- 4月 多言語通訳サービス運用開始

2019 - 2023

令和元年 - 令和5年

令和元年(2019)

- 8月 兵庫県石油商業組合淡路支部と災害時の支援活動等における相互協力に関する協定を締結
- 12月 NET119緊急通報システム運用開始

令和3年(2021)

- 3月 由良出張所新庁舎完成
- 4月 由良出張所 新庁舎移転業務開始
予防技術資格者運用開始
指揮隊運用開始
- 12月 神戸市消防局と淡路広域消防事務組合
消防本部が消防相互応援協定を締結
緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練
を淡路島内で実施

令和4年(2022)

- 4月 多言語通訳サービス運用開始
消防本部機構改革で3課8係を3課1室8係
に改編する
(1本部、3課、1室、1署、3分署、
4出張所)

令和5年(2023)

- 1月 淡路広域消防事務組合設立50周年
- 2月 神戸市消防局と淡路広域消防事務組合
消防相互応援協定の締結に伴う交通事故
対応合同訓練
(淡路市夢舞台 国営明石海峡公園駐車場)



▲ 神戸・淡路消防相互応援協定を締結(令和3年)



▲ 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練(令和3年)



▲ 神戸消防との交通事故対応合同訓練(令和5年)

第6章

消防50年の災害



～安全・安心 つながる未来へ～

1973 - 1991

昭和 48年 - 平成 3年

昭和 53年 (1978)

12月 洲本市本町6丁目アーケード街にて火災発生、18棟を全焼し、65人が焼け出された



神戸新聞社 提供

▲ アーケード街火災 (昭和53年)

昭和 54年 (1979)

9月 淡路島南部を襲った台風16号は、1時間に145ミリの史上最大の雨量を観測し、島内のいたるところで床上浸水、負傷者の被害が続出し、大きな災禍をもたらした



▲ 土産菓子製造工場火災 (昭和61年)

11月 洲本市塩屋の精紡工場で発生した火災は、3,071㎡を焼損し半焼でくい止めたが、収容物の損害が大きく、損害額は8千万円以上となった



読売新聞社 提供

▲ 高速艇衝突事故 (平成元年)

昭和 61年 (1986)

7月 津名町の土産菓子の製造工場より出火、鉄骨スレート2階建て延べ3,787㎡を半焼でくい止めたが、機器の損害が大きく1億円を上回った



▲ たまねぎ小屋火災 (平成元年)

平成 元年 (1989)

2月 津名港において高速艇「緑風」が防波堤に衝突、淡路看護学校を受験に来た女子高生が犠牲となり、あわせて8名を救急搬送した

10月 約9ヶ月間にわたり、洲本市、三原郡を中心に淡路島特有のたまねぎ小屋を大半とした、64件の放火とおもわれる火災が続発する



▲ パチンコ店火災 (平成3年)

平成 3年 (1991)

9月 三原町でパチンコ店から出火、半焼であったが損害額が6億円を上回った



▲ 林野火災 (平成6年)



▲ 阪神淡路大震災 (平成7年)



読売新聞社大阪本社 提供

▲ 路線バス横転事故 (平成11年)

1992 - 2001

平成 4年 - 平成 13年

平成 4年 (1992)

1月 西淡町阿那賀の民家で発生した火災が林野に延焼、季節風にあおられて急速に拡大、民家2棟、林野120haを焼きつくし兵庫県、神戸市、京都市へのヘリコプターの協力を得て鎮火に至った

平成 6年 (1994)

9月 緑町で発生した林野火災は、異常渇水期の火災で鎮火に5日を要し、大規模特殊災害時における広域航空消防応援要請により、延べ出動人員1,236人、ヘリ20機を必要とした
渇水に伴う消防対策本部を設置

平成 7年 (1995)

1月 阪神淡路大震災
淡路島の北東の海底を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生、淡路島では、死者62名、重軽傷者1,266名、建物全壊3,450棟、半壊5,326棟と被害は全域に及んだ

(現)市名	死者	負傷者
淡路市	58	1,177
洲本市	4	61
南あわじ市	0	28
合計	62	1,266

平成 11年 (1999)

1月 神戸淡路鳴門道の津名一宮インターランプウェイにおいて、路線バスがカーブを曲がりきれずに横転、乗客13名が重軽傷を負った

2002 - 2010

平成 14年 - 平成 22年

平成 14年 (2002)

7月 淡路町の神戸淡路鳴門自動車道において大型バス・大型トラックを含む9台による多重衝突事故が発生
相互応援協定による神戸市消防局・明石市消防本部合同による必死の救出救護を実施するが4名が死亡し約30名が重軽傷を負う大惨事となった



▲ 神戸淡路鳴門自動車道交通事故 (平成14年)



▲ 論鶴羽山軽飛行機墜落事故 (平成16年)



▲ 台風23号の豪雨 (平成16年)



▲ 林野火災 (平成19年)

平成 16年 (2004)

9月 論鶴羽山軽飛行機墜落事故

10月 台風23号は、総降水量372ミリ(洲本)という猛烈な雨が降り、至るところで河川の氾濫や崖崩れなどを起こした
淡路島内で死者10人、負傷者26人、全壊家屋405棟、半壊1,835棟、一部損害 185棟、
洲本市(千草川、洲本川氾濫・決壊)で、約3,100棟、津名町(志筑川氾濫・決壊)で約700棟、西淡町(三原川氾濫・決壊)で約800棟の床上床下浸水し、甚大な被害をもたらした

平成 19年 (2007)

12月 淡路市野島大川で発生した林野火災
風にあおられて延焼拡大し、林野を焼損、兵庫県防災ヘリコプターの協力を得て鎮火に至った

2011 - 2013

平成 23年 - 平成 25年

平成 23年 (2011)

3月 東日本大震災 発生



▲ 東日本大震災 (平成23年)



▲ 緊急消防援助隊 兵庫県隊派遣 (平成23年)



▲ 淡路島付近を震源とする地震 (平成25年)

地震の規模はマグニチュード9.0で、日本周辺における観測史上最大の地震である
震源は広大で、岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmのおよそ10万㎡という広範囲すべてが震源域とされる
最大震度は宮城県栗原市で観測された震度7で、宮城・栃木・福島・茨城の4県36市町村と仙台市内の1区で震度6強を観測した。死者15,883人、重軽傷者は6,146人、警察に届出があった行方不明者は2,654人

緊急消防援助隊 兵庫県隊 東北地方へ派遣平成23年3月11日から平成23年4月25日まで当組合から救急車1台、職員30名を派遣する

平成 25年 (2013)

4月 淡路島付近を震源とする地震が発生し、最大で震度6弱が観測された
揺れによる被害は甚大でなかったものの、震源周辺の淡路島洲本市などで、4,000棟以上の建物被害が発生した

2014 - 2023

平成 26 年 - 令和 5 年

平成 26 年 (2014)

- 8月 南あわじ市福良で発生した建物火災
強風にあおられ急速に隣接建物へ延焼し、
全焼14棟、部分焼4棟、ぼや2棟、合計
20棟が焼損し、損害額は1億円を上回った



▲ 建物火災 (平成26年)



▲ 熊本県地震 (平成28年)

平成 28 年 (2016)

- 4月 熊本県地震
熊本地方においてマグニチュード6.5の
地震が発生し、最大震度7を観測した
また、翌々日にはマグニチュード7.3の
地震が発生し、熊本県を中心に九州地方
に強い揺れ観測した
死者55人、重軽傷者1,814人



▲ 緊急消防援助隊 兵庫県隊派遣 (平成28年)

平成 31 年 (2019)

- 4月 南あわじ市阿万で発生した火災
船舶製造工場から出火、林野へ延焼拡大し、
建物、山林を焼損する
兵庫県防災ヘリコプターの協力を得て鎮火
に至った



▲ 船舶製造工場火災 (平成31年)

令和 2 年 (2020)

- 4月 淡路島内において、新型コロナウイルス
(COVID-19) 感染者の発生に伴い、
新型コロナウイルス感染症対策本部を設置

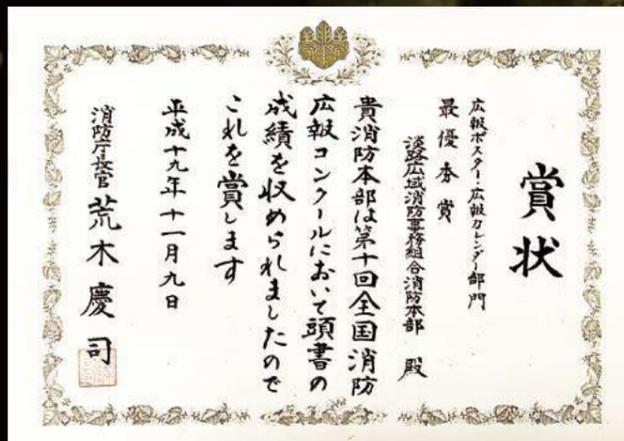
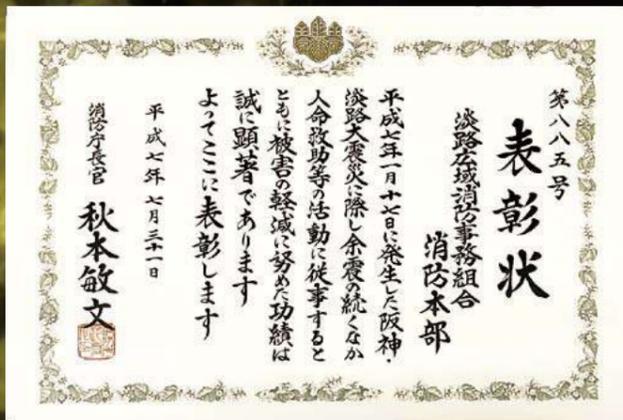
第7章

消防 50 年の表彰・感謝状



～安全・安心 つながる未来へ～

表彰・感謝状



第8章

資料・統計



～安全・安心 つながる未来へ～

目 次

歴代管理者・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

歴代議会議長・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

歴代消防長・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

歴代洲本消防署長・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

消防職員数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

火災件数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

救急出場件数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

救助出動件数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

災害別119番受信状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

防火対象物の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

危険物施設の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

歴代管理者

氏 名	就 任 期 間
佐野 豊 (旧洲本市長)	昭和48年1月13日～昭和59年9月3日
谷 安司 (旧洲本市長)	昭和59年9月12日～平成4年9月3日
中川 啓一 (旧洲本市長)	平成4年9月11日～平成5年2月22日
高木 薫 (旧緑町長)	平成5年2月22日～平成8年1月30日
不動 雅宣 (旧緑町長)	平成8年2月22日～平成12年1月30日
柳田 登 (旧緑町長)	平成12年2月24日～平成14年8月6日
中川 啓一 (旧洲本市長)	平成14年9月4日～平成15年8月26日
長江 和幸 (旧西淡町長)	平成15年8月26日～平成16年12月22日
柳 実郎 (旧洲本市長)	平成16年12月22日～平成17年8月25日
中田 勝久 (南あわじ市長)	平成17年8月25日～平成24年3月31日
門 康彦 (淡路市長)	平成24年4月1日～平成26年3月31日
竹内 通弘 (洲本市長)	平成26年4月1日～平成28年3月31日
中田 勝久 (南あわじ市長)	平成28年4月1日～平成29年2月12日
守本 憲弘 (南あわじ市長)	平成29年2月13日～平成30年3月31日
門 康彦 (淡路市長)	平成30年4月1日～令和4年3月31日
上崎 勝規 (洲本市長)	令和4年4月1日～現 在

歴代議会議長

氏 名	就 任 期 間
郷 武夫 (旧 緑 町)	昭和 48 年 1 月 13 日 ~ 昭和 48 年 7 月 26 日
浜田 悦雄 (旧 西 淡 町)	昭和 48 年 10 月 30 日 ~ 昭和 49 年 7 月 19 日
福原 源八 (旧 西 淡 町)	昭和 49 年 7 月 30 日 ~ 昭和 50 年 7 月 23 日
萩山 定勝 (旧 緑 町)	昭和 50 年 8 月 25 日 ~ 昭和 52 年 7 月 17 日
中山 登 (旧 淡 路 町)	昭和 52 年 9 月 5 日 ~ 昭和 53 年 5 月 12 日
金田 茂夫 (旧 津 名 町)	昭和 53 年 9 月 5 日 ~ 昭和 54 年 5 月 9 日
藤 忠史 (旧 淡 路 町)	昭和 54 年 8 月 21 日 ~ 昭和 56 年 5 月 13 日
向原 敏雄 (旧 津 名 町)	昭和 56 年 8 月 31 日 ~ 昭和 57 年 5 月 12 日
西岡 英樹 (旧 南 淡 町)	昭和 57 年 8 月 26 日 ~ 昭和 58 年 7 月 22 日
前川 有 (旧 緑 町)	昭和 58 年 8 月 30 日 ~ 昭和 60 年 7 月 26 日
森田 症兵衛 (旧 一 宮 町)	昭和 60 年 9 月 3 日 ~ 昭和 60 年 11 月 28 日
森 吉一 (旧 淡 路 町)	昭和 61 年 2 月 5 日 ~ 昭和 61 年 5 月 15 日
黒田 信雄 (旧 南 淡 町)	昭和 61 年 8 月 27 日 ~ 昭和 62 年 7 月 23 日
堀井 満平 (旧 西 淡 町)	昭和 62 年 8 月 31 日 ~ 平成 元年 7 月 11 日
中村 義春 (旧 北 淡 町)	平成 元年 8 月 30 日 ~ 平成 元年 10 月 2 日
赤坂 富雄 (旧 津 名 町)	平成 元年 12 月 27 日 ~ 平成 2 年 5 月 7 日
平野 利次 (旧 南 淡 町)	平成 2 年 8 月 24 日 ~ 平成 3 年 7 月 15 日
浜西 敏治 (旧 北 淡 町)	平成 3 年 8 月 30 日 ~ 平成 3 年 9 月 27 日
横山 昌次郎 (旧 津 名 町)	平成 3 年 12 月 26 日 ~ 平成 4 年 5 月 14 日
河辺 恭敬 (旧 西 淡 町)	平成 4 年 9 月 11 日 ~ 平成 5 年 7 月 11 日
四方 進 (旧 洲 本 市)	平成 5 年 8 月 26 日 ~ 平成 6 年 6 月 27 日
横道 義春 (旧 洲 本 市)	平成 6 年 8 月 22 日 ~ 平成 7 年 6 月 26 日
岸本 充夫 (旧 洲 本 市)	平成 7 年 8 月 24 日 ~ 平成 8 年 6 月 11 日
樋口 正 (旧 洲 本 市)	平成 8 年 9 月 5 日 ~ 平成 9 年 6 月 24 日
西岡 美彰 (旧 洲 本 市)	平成 9 年 9 月 3 日 ~ 平成 10 年 6 月 25 日
伊郷 文夫 (旧 洲 本 市)	平成 10 年 9 月 8 日 ~ 平成 11 年 6 月 24 日
浜端 嘉和 (旧 洲 本 市)	平成 11 年 8 月 27 日 ~ 平成 12 年 6 月 11 日
上田 淳一郎 (旧 洲 本 市)	平成 12 年 8 月 24 日 ~ 平成 13 年 7 月 26 日
宮本 徳治 (旧 洲 本 市)	平成 13 年 8 月 24 日 ~ 平成 14 年 7 月 26 日
柳 雅文 (旧 洲 本 市)	平成 14 年 8 月 23 日 ~ 平成 15 年 7 月 25 日

歴代議会議長

氏 名	就 任 期 間
奥井 正展 (旧 洲 本 市)	平成 15 年 8 月 26 日 ~ 平成 16 年 7 月 25 日
小松 茂 (旧 洲 本 市)	平成 16 年 8 月 27 日 ~ 平成 18 年 2 月 10 日
地村 耕一郎 (洲 本 市)	平成 18 年 8 月 25 日 ~ 平成 19 年 3 月 26 日
小松 茂 (洲 本 市)	平成 19 年 3 月 27 日 ~ 平成 20 年 3 月 26 日
和田 正昭 (洲 本 市)	平成 20 年 8 月 27 日 ~ 平成 21 年 3 月 25 日
土井 敏雄 (洲 本 市)	平成 21 年 5 月 30 日 ~ 平成 22 年 3 月 18 日
木下 義壽 (洲 本 市)	平成 22 年 3 月 30 日 ~ 平成 23 年 3 月 25 日
奥井 正展 (洲 本 市)	平成 23 年 8 月 24 日 ~ 平成 24 年 3 月 26 日
山本 和彦 (洲 本 市)	平成 24 年 3 月 29 日 ~ 平成 24 年 8 月 31 日
楠 和廣 (南 あ わ じ 市)	平成 24 年 8 月 31 日 ~ 平成 24 年 11 月 22 日
森上 祐治 (南 あ わ じ 市)	平成 25 年 2 月 20 日 ~ 平成 25 年 11 月 19 日
小島 一 (南 あ わ じ 市)	平成 25 年 11 月 29 日 ~ 平成 26 年 8 月 28 日
松本 英志 (淡 路 市)	平成 26 年 8 月 28 日 ~ 平成 27 年 8 月 10 日
田中 孝始 (淡 路 市)	平成 27 年 8 月 26 日 ~ 平成 28 年 8 月 10 日
山本 和彦 (洲 本 市)	平成 28 年 8 月 24 日 ~ 平成 29 年 3 月 23 日
小松 茂 (洲 本 市)	平成 29 年 3 月 29 日 ~ 平成 30 年 3 月 18 日
福本 巧 (洲 本 市)	平成 30 年 3 月 29 日 ~ 平成 30 年 8 月 22 日
廣内 孝次 (南 あ わ じ 市)	平成 30 年 8 月 22 日 ~ 平成 30 年 11 月 21 日
原口 育大 (南 あ わ じ 市)	平成 30 年 12 月 21 日 ~ 令和 元年 11 月 21 日
熊田 司 (南 あ わ じ 市)	令和 元年 12 月 20 日 ~ 令和 2 年 11 月 19 日
長船 吉博 (南 あ わ じ 市)	令和 2 年 11 月 30 日 ~ 令和 3 年 3 月 10 日
谷口 博文 (南 あ わ じ 市)	令和 3 年 11 月 29 日 ~ 令和 4 年 8 月 24 日
太田 善雄 (淡 路 市)	令和 4 年 8 月 24 日 ~ 令和 5 年 8 月 8 日
土井 晴夫 (淡 路 市)	令和 5 年 8 月 23 日 ~ 現 在

歴代消防長

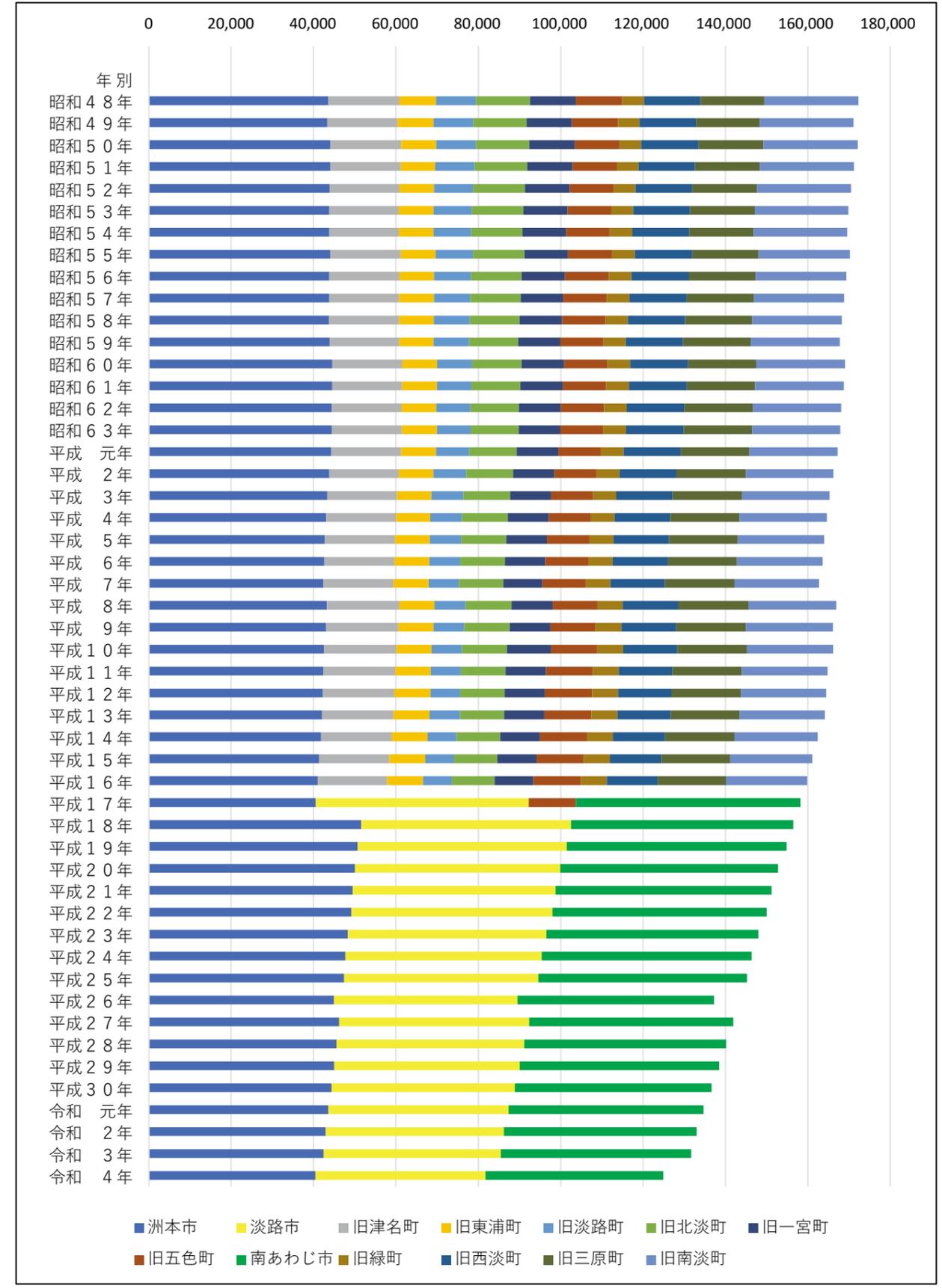
氏 名	就 任 期 間
渡辺 孝 (旧洲本市助役)	昭和48年 1月11日 ~ 昭和49年 5月 4日
佐野 豊 (旧洲本市長)	昭和49年 5月 5日 ~ 昭和49年 6月18日
井高 茂 (旧洲本市助役)	昭和49年 6月19日 ~ 昭和52年 3月31日
佐野 豊 (旧洲本市長)	昭和52年 4月 1日 ~ 昭和52年 6月24日
太田 憲明 (旧洲本市助役)	昭和52年 6月24日 ~ 昭和56年 6月23日
佐野 豊 (旧洲本市長)	昭和56年 6月24日 ~ 昭和56年 9月30日
高木 薫 (旧洲本市助役)	昭和56年 9月30日 ~ 昭和60年 9月29日
奥井 齋 (旧洲本市助役)	昭和60年 9月30日 ~ 平成 4年 9月 3日
中川 啓一 (旧洲本市長)	平成 4年 9月11日 ~ 平成 5年 2月22日
森本 順也 (旧洲本市助役)	平成 5年 2月23日 ~ 平成 8年11月26日
不動 雅宣 (旧緑町長)	平成 8年11月27日 ~ 平成 9年 3月31日
吉浦 豊秋 (旧洲本市職員)	平成 9年 4月 1日 ~ 平成14年 3月31日
宮川 正直 (旧洲本市職員)	平成14年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日
眞山 和良 (消防吏員)	平成17年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
坂本 武 (消防吏員)	平成19年 4月 1日 ~ 平成20年 3月31日
藤本 昇 (南あわじ市職員)	平成20年 4月 1日 ~ 平成22年 3月31日
南 幸正 (南あわじ市職員)	平成22年 4月 1日 ~ 平成24年 3月31日
大原 耕平 (消防吏員)	平成24年 4月 1日 ~ 平成28年 3月31日
杉坂 光一 (消防吏員)	平成28年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日
石田 一彦 (消防吏員)	平成29年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日
日々野 数哉 (消防吏員)	平成31年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月31日
川上 洋司 (消防吏員)	令和 3年 4月 1日 ~ 現 在

歴代洲本消防署長

氏 名	就 任 期 間
山下 治夫	昭和48年 4月 1日 ~ 昭和62年 3月31日
大上 修美	昭和62年 4月 1日 ~ 平成 9年 3月31日
島田 久雄	平成 9年 4月 1日 ~ 平成11年 3月31日
川 茂男	平成11年 4月 1日 ~ 平成14年 3月31日
神木 必勝	平成14年 4月 1日 ~ 平成15年12月21日
宮川 正直	平成15年12月22日 ~ 平成16年 3月31日
坂本 武	平成16年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
大継 敏男	平成19年 4月 1日 ~ 平成20年 3月31日
雨瀬 行生	平成20年 4月 1日 ~ 平成22年 3月31日
大原 耕平	平成22年 4月 1日 ~ 平成23年 3月31日
細川 正勝	平成23年 4月 1日 ~ 平成25年 3月31日
桐本 佳弘	平成25年 4月 1日 ~ 平成27年 3月31日
杉坂 光一	平成27年 4月 1日 ~ 平成28年 3月31日
石田 一彦	平成28年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日
樋口 安明	平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日
日々野 数哉	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日
川上 洋司	平成31年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月31日
脇田 喜輝	令和 3年 4月 1日 ~ 現 在

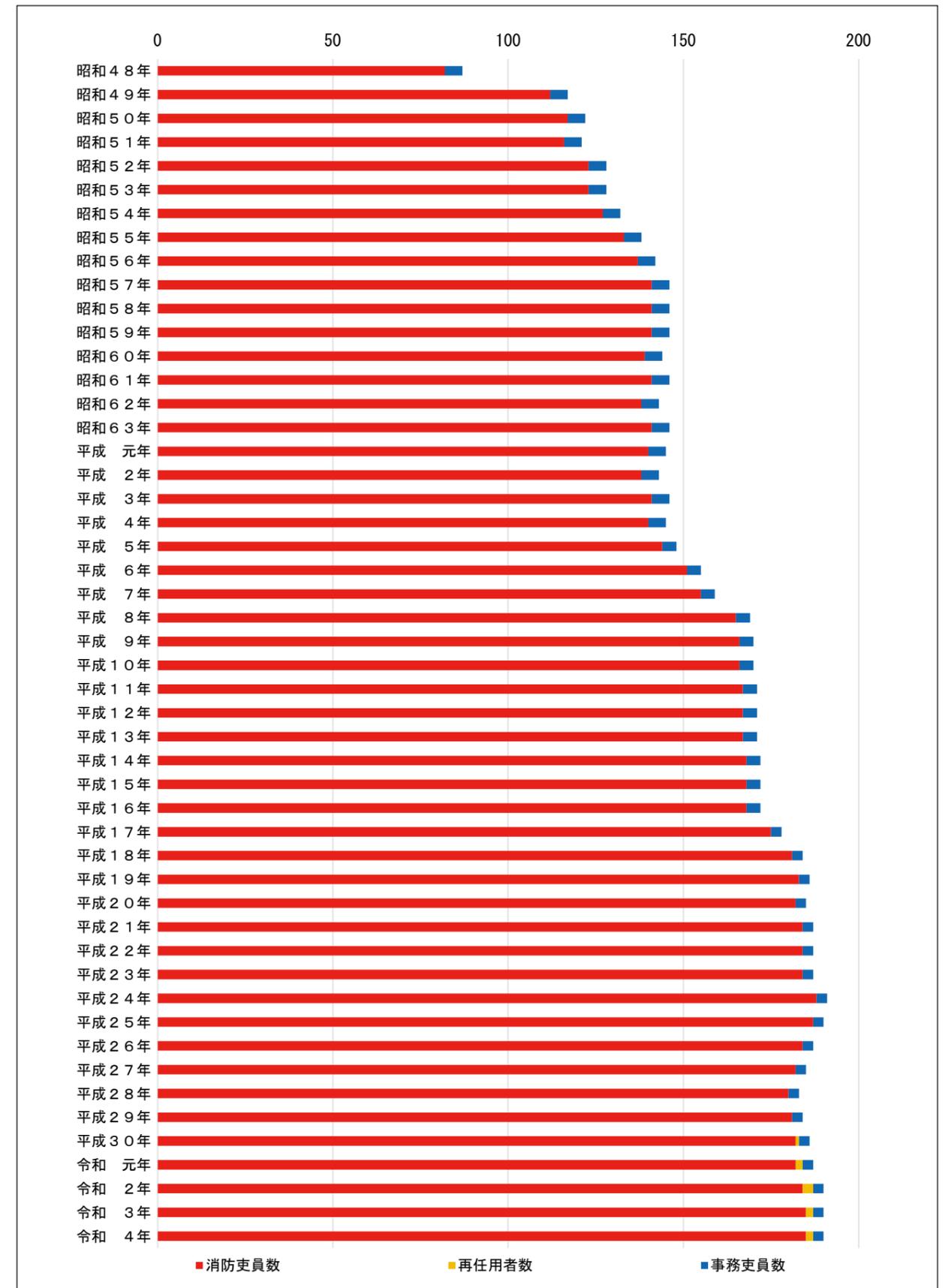
人口の推移

市町	洲本市	淡路市	旧津名町	旧東浦町	旧淡路町	旧北淡町	旧一宮町	旧五色町	南あわじ市	旧緑町	旧西淡町	旧三原町	旧南淡町	合計
昭和48年	43,638	-	17,209	8,905	9,703	13,149	11,067	11,313	-	5,229	13,779	15,484	22,812	172,288
昭和49年	43,343	-	17,056	8,743	9,652	12,993	10,934	11,199	-	5,222	13,747	15,506	22,713	171,108
昭和50年	44,135	-	17,140	8,525	9,620	12,930	11,085	10,885	-	5,230	13,970	15,685	22,930	172,135
昭和51年	44,126	-	17,029	8,406	9,568	12,752	10,998	10,796	-	5,221	13,749	15,737	22,848	171,230
昭和52年	43,897	-	16,956	8,398	9,447	12,635	10,884	10,641	-	5,312	13,785	15,712	22,818	170,485
昭和53年	43,811	-	16,885	8,455	9,269	12,547	10,736	10,602	-	5,338	13,772	15,702	22,738	169,855
昭和54年	43,826	-	16,843	8,486	9,158	12,434	10,583	10,601	-	5,473	13,798	15,684	22,702	169,588
昭和55年	44,131	-	17,045	8,471	9,082	12,473	10,579	10,695	-	5,509	13,998	16,004	22,233	170,220
昭和56年	43,856	-	16,982	8,420	8,980	12,301	10,534	10,633	-	5,507	13,950	16,196	22,023	169,382
昭和57年	43,847	-	16,943	8,451	8,843	12,214	10,347	10,564	-	5,486	13,935	16,277	21,934	168,841
昭和58年	43,757	-	17,025	8,443	8,729	12,088	10,290	10,532	-	5,447	13,923	16,272	21,791	168,297
昭和59年	43,885	-	16,905	8,388	8,625	11,891	10,200	10,487	-	5,469	13,891	16,339	21,720	167,800
昭和60年	44,563	-	16,985	8,486	8,474	11,989	10,372	10,485	-	5,557	14,007	16,529	21,597	169,044
昭和61年	44,550	-	16,970	8,473	8,361	11,880	10,308	10,490	-	5,562	14,001	16,619	21,530	168,744
昭和62年	44,413	-	16,955	8,437	8,296	11,741	10,183	10,474	-	5,565	13,979	16,625	21,450	168,118
昭和63年	44,485	-	16,978	8,505	8,233	11,600	10,100	10,395	-	5,592	13,979	16,604	21,416	167,887
平成元年	44,304	-	16,989	8,454	8,052	11,519	10,114	10,300	-	5,570	13,870	16,666	21,399	167,237
平成2年	43,819	-	16,869	8,390	7,934	11,444	10,066	10,232	-	5,607	13,789	16,847	21,283	166,220
平成3年	43,345	-	16,928	8,362	7,807	11,297	9,950	10,160	-	5,671	13,657	16,843	21,283	165,303
平成4年	43,098	-	16,967	8,285	7,737	11,126	9,922	10,240	-	5,709	13,580	16,801	21,170	164,635
平成5年	42,756	-	17,031	8,438	7,602	11,003	9,883	10,296	-	5,818	13,472	16,695	21,012	164,006
平成6年	42,624	-	17,034	8,477	7,464	10,889	9,802	10,432	-	5,900	13,435	16,696	20,847	163,600
平成7年	42,373	-	17,084	8,484	7,431	10,687	9,549	10,466	-	5,988	13,248	16,854	20,574	162,738
平成8年	43,243	-	17,607	8,521	7,559	11,123	10,034	10,822	-	6,177	13,531	17,020	21,289	166,926
平成9年	43,022	-	17,622	8,501	7,483	10,994	9,921	10,939	-	6,241	13,320	16,937	21,133	166,113
平成10年	42,606	-	17,538	8,533	7,393	10,903	10,733	11,192	-	6,261	13,197	16,868	20,947	166,171
平成11年	42,414	-	17,450	8,611	7,305	10,806	9,847	11,363	-	6,279	13,064	16,831	20,801	164,771
平成12年	42,259	-	17,379	8,734	7,256	10,755	9,799	11,430	-	6,300	13,013	16,824	20,700	164,449
平成13年	42,077	-	17,362	8,745	7,410	10,690	9,730	11,471	-	6,280	12,912	16,823	20,642	164,142
平成14年	41,823	-	17,153	8,710	7,035	10,622	9,611	11,438	-	6,287	12,679	16,829	20,205	162,392
平成15年	41,390	-	17,024	8,726	6,972	10,526	9,509	11,476	-	6,353	12,480	16,724	19,927	161,107
平成16年	41,017	-	16,898	8,709	6,972	10,395	9,384	11,530	-	6,317	12,337	16,618	19,699	159,876
平成17年	40,519	51,713	-	-	-	-	-	11,489	54,510	-	-	-	-	158,231
平成18年	51,586	50,920	-	-	-	-	-	-	53,960	-	-	-	-	156,466
平成19年	50,735	50,735	-	-	-	-	-	-	53,374	-	-	-	-	154,844
平成20年	50,087	49,812	-	-	-	-	-	-	52,888	-	-	-	-	152,787
平成21年	49,501	49,284	-	-	-	-	-	-	52,410	-	-	-	-	151,195
平成22年	49,202	48,800	-	-	-	-	-	-	52,012	-	-	-	-	150,014
平成23年	48,358	48,198	-	-	-	-	-	-	51,450	-	-	-	-	148,006
平成24年	47,776	47,606	-	-	-	-	-	-	51,017	-	-	-	-	146,399
平成25年	47,413	47,194	-	-	-	-	-	-	50,609	-	-	-	-	145,216
平成26年	44,966	44,592	-	-	-	-	-	-	47,685	-	-	-	-	137,243
平成27年	46,237	46,142	-	-	-	-	-	-	49,554	-	-	-	-	141,933
平成28年	45,587	45,556	-	-	-	-	-	-	49,046	-	-	-	-	140,189
平成29年	45,040	45,053	-	-	-	-	-	-	48,427	-	-	-	-	138,520
平成30年	44,404	44,485	-	-	-	-	-	-	47,771	-	-	-	-	136,660
令和元年	43,646	43,734	-	-	-	-	-	-	47,289	-	-	-	-	134,669
令和2年	42,973	43,253	-	-	-	-	-	-	46,767	-	-	-	-	132,993
令和3年	42,483	42,986	-	-	-	-	-	-	46,260	-	-	-	-	131,729
令和4年	40,456	41,334	-	-	-	-	-	-	43,131	-	-	-	-	124,921



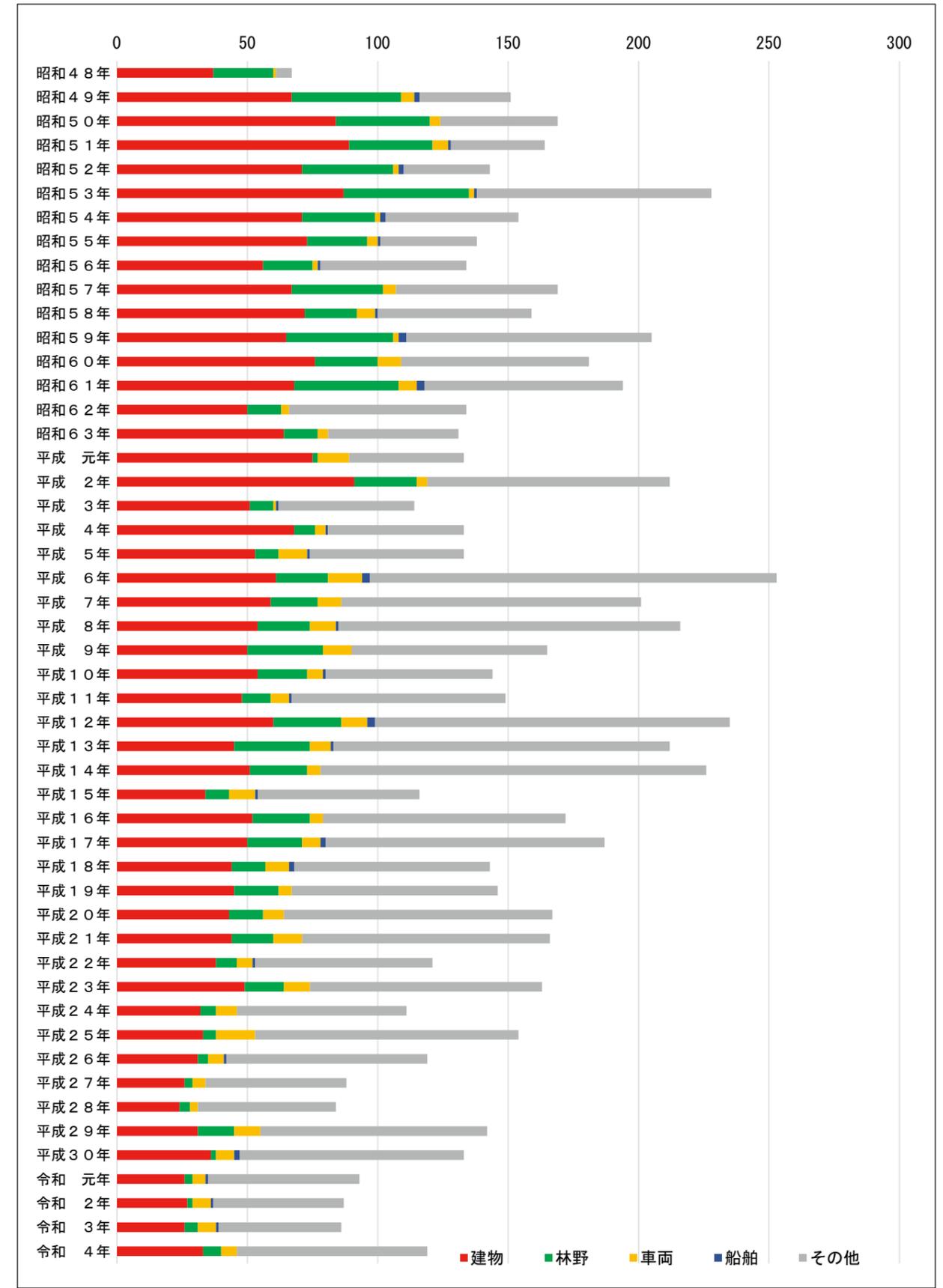
消防職員数の推移

区分 年別	前年度中 における 退職者数	採用者数	消防 吏員数	消防 吏員数 (再任用)	事務 吏員数	職員合計	条例定数	その他
昭和48年	-	35	82	-	5	87	133	
昭和49年	3	33	112	-	5	117	133	岩屋・南淡業務開始
昭和50年	5	10	117	-	5	122	133	北淡・五色業務開始
昭和51年	1		116	-	5	121	133	西淡業務開始
昭和52年	4	11	123	-	5	128	133	
昭和53年	4	4	123	-	5	128	133	
昭和54年		4	127	-	5	132	133	
昭和55年	1	7	133	-	5	138	147	
昭和56年	2	6	137	-	5	142	147	
昭和57年		4	141	-	5	146	147	津名屋間業務開始
昭和58年			141	-	5	146	147	
昭和59年	2	2	141	-	5	146	147	西淡救急業務開始
昭和60年	2		139	-	5	144	147	
昭和61年		2	141	-	5	146	147	
昭和62年	3		138	-	5	143	147	
昭和63年	3	6	141	-	5	146	147	
平成元年	1		140	-	5	145	147	
平成2年	2		138	-	5	143	147	
平成3年		3	141	-	5	146	147	
平成4年	1		140	-	5	145	147	
平成5年	2	6	144	-	4	148	162	
平成6年	2	9	151	-	4	155	162	五色救急業務開始
平成7年	1	5	155	-	4	159	162	北淡救急業務開始
平成8年	1	11	165	-	4	169	172	
平成9年	2	3	166	-	4	170	172	津名一宮業務開始
平成10年	4	4	166	-	4	170	172	航空隊派遣1名
平成11年	2	3	167	-	4	171	172	航空隊派遣1名
平成12年	1	1	167	-	4	171	172	
平成13年	1	1	167	-	4	171	172	
平成14年	2	3	168	-	4	172	172	
平成15年	4	4	168	-	4	172	172	
平成16年	6	6	168	-	4	172	172	
平成17年	4	11	175	-	3	178	204	救急救命士養成所派遣1名
平成18年		6	181	-	3	184	204	航空隊派遣1名
平成19年	3	5	183	-	3	186	204	航空隊派遣1名
平成20年	6	5	182	-	3	185	204	航空隊派遣1名
平成21年	3	5	184	-	3	187	204	
平成22年	6	6	184	-	3	187	204	
平成23年	6	6	184	-	3	187	204	
平成24年	5	10	188	-	3	191	204	
平成25年	9	9	187	-	3	190	204	
平成26年	11	8	184	-	3	187	204	
平成27年	11	9	182	-	3	185	204	兵庫県災害医療センター派遣1名
平成28年	14	12	180	-	3	183	204	兵庫県災害医療センター派遣1名
平成29年	12	13	181	-	3	184	204	航空隊派遣1名
平成30年	5	6	182	1	3	186	204	航空隊派遣1名、消防学校派遣1名
令和元年	4	6	182	2	3	187	204	航空隊派遣1名
令和2年	2	5	184	3	3	190	204	緊援隊合同訓練実行委員会派遣1名
令和3年	6	4	185	2	3	190	204	緊援隊合同訓練実行委員会派遣1名
令和4年	3	3	185	2	3	190	204	救急救命士養成所派遣1名



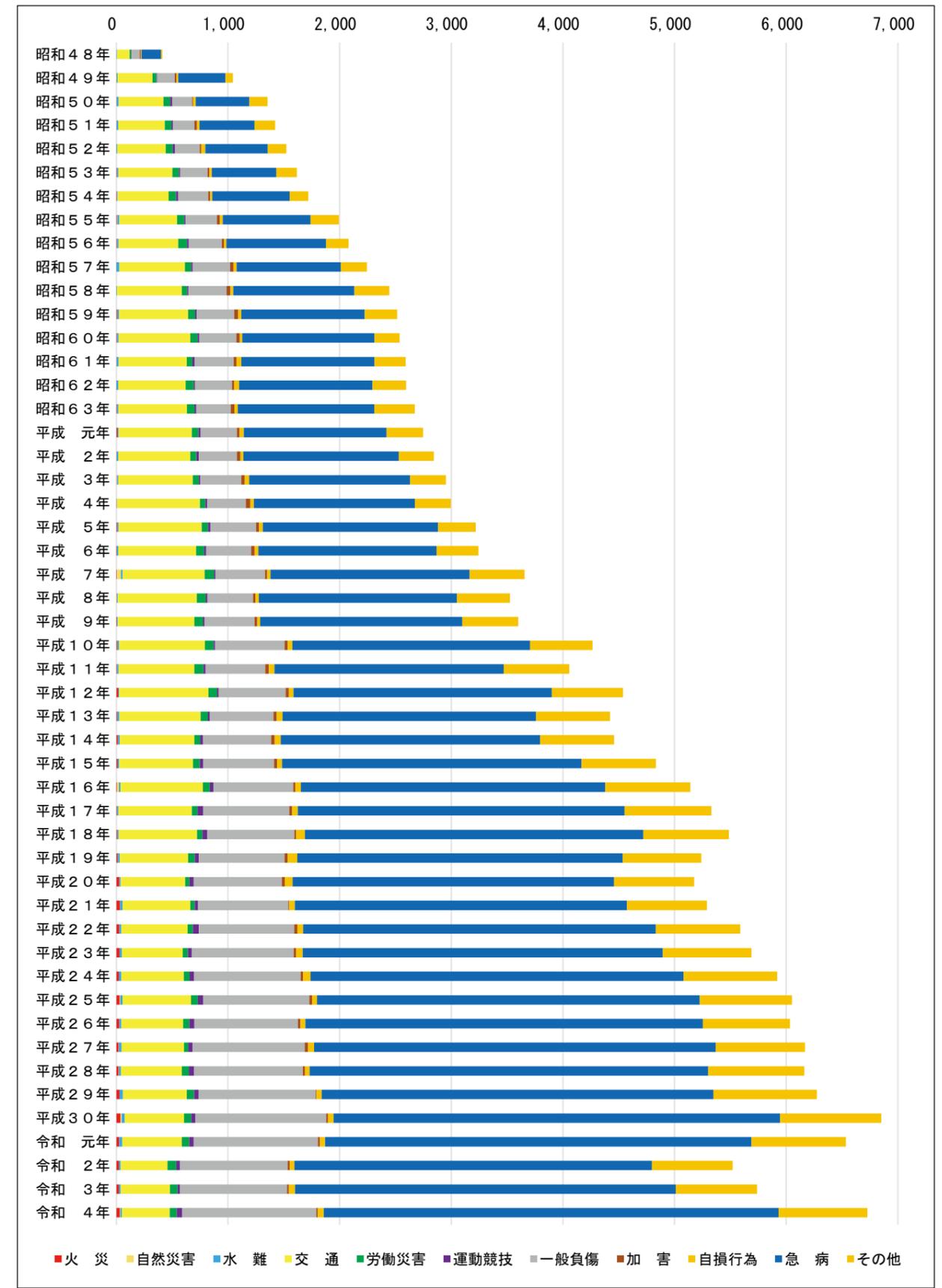
火災件数の推移

区分 年別	火災件数	火災種別					焼損棟数	焼損面積			死傷者数		り災世帯数	り災人員数	損害額 (千円)
		建物	林野	車両	船舶	その他		建物床面積 (㎡)	建物表面積 (㎡)	林野 (a)	死者	負傷者			
昭和48年	67	37	23	1		6	53	2,326	-	840	3	10	29	121	44,632
昭和49年	151	67	42	5	2	35	85	3,215	-	1,340	3	13	39	142	112,587
昭和50年	169	84	36	4		45	104	4,208	-	15,192	8	15	49	157	138,830
昭和51年	164	89	32	6	1	36	120	5,291	-	596	1	9	51	152	103,121
昭和52年	143	71	35	2	2	33	91	4,005	-	669	3	9	38	152	267,181
昭和53年	228	87	48	2	1	90	156	7,202	-	732	7	15	75	270	538,620
昭和54年	154	71	28	2	2	51	89	7,737	-	561	4	17	46	154	422,488
昭和55年	138	73	23	4	1	37	92	3,421	-	22,003	2	15	45	147	257,895
昭和56年	134	56	19	2	1	56	98	3,478	-	2,236	3	18	63	223	237,959
昭和57年	169	67	35	5		62	95	6,958	-	361	3	11	37	119	327,903
昭和58年	159	72	20	7	1	59	103	4,934	-	131	4	9	50	186	263,375
昭和59年	205	65	41	2	3	94	89	3,375	-	2,227	6	16	43	160	185,222
昭和60年	181	76	24	9		72	130	4,635	-	190	8	16	67	202	339,727
昭和61年	194	68	40	7	3	76	100	3,772	-	572	3	14	52	169	406,380
昭和62年	134	50	13	3		68	79	2,889	-	86	2	10	41	131	295,147
昭和63年	131	64	13	4		50	96	4,578	-	222	5	11	43	142	348,069
平成元年	133	75	2	12		44	107	3,497	-	133	2	13	36	115	349,094
平成2年	212	91	24	4		93	136	4,697	-	129	3	11	49	128	289,879
平成3年	114	51	9	1	1	52	72	3,423	-	510	2	6	46	124	1,002,798
平成4年	133	68	8	4	1	52	89	3,771	-	12,327	1	9	31	74	309,050
平成5年	133	53	9	11	1	59	82	3,140	-	5,127	4	11	44	134	358,014
平成6年	253	61	20	13	3	156	85	2,540	288	2,042	4	15	34	110	301,950
平成7年	201	59	18	9		115	86	5,267	150	1,290	5	16	39	154	616,867
平成8年	216	54	20	10	1	131	78	3,538	195	554	3	14	36	110	312,657
平成9年	165	50	29	11		75	70	2,966	232	279	4	9	37	94	278,388
平成10年	144	54	19	6	1	64	85	3,676	357	253	3	15	49	158	527,824
平成11年	149	48	11	7	1	82	83	3,689	695	146	9	8	51	163	346,509
平成12年	235	60	26	10	3	136	81	2,968	1,569	155	8	21	48	374	341,012
平成13年	212	45	29	8	1	129	68	2,301	412	391	7	14	40	110	253,329
平成14年	226	51	22	5		148	68	2,469	724	179		20	36	108	201,633
平成15年	116	34	9	10	1	62	70	3,253	128	46	12	11	46	99	357,379
平成16年	172	52	22	5		93	85	5,021	178	62	4	8	30	79	401,881
平成17年	187	50	21	7	2	107	88	3,642	346	274	5	9	41	118	335,264
平成18年	143	44	13	9	2	75	73	4,572	155	138	5	10	39	96	346,541
平成19年	146	45	17	5		79	69	2,987	267	1,075	5	8	41	107	235,213
平成20年	167	43	13	8		103	68	3,741	353	80	3	12	29	78	276,591
平成21年	166	44	16	11		95	78	4,963	349	333	4	13	31	84	488,243
平成22年	121	38	8	6	1	68	66	2,836	114	320		4	23	66	495,859
平成23年	163	49	15	10		89	77	2,312	263	217	4	6	29	67	187,630
平成24年	111	32	6	8		65	43	1,115	109	16	4	4	20	51	43,227
平成25年	154	33	5	15		101	43	1,622	100	40	3	13	19	44	117,695
平成26年	119	31	4	6	1	77	73	4,833	598	19	4	10	28	76	225,596
平成27年	88	26	3	5		54	55	2,594	192	9	3	4	16	34	155,089
平成28年	84	24	4	3		53	40	2,075	172	45	4	8	22	38	175,821
平成29年	142	31	14	10		87	60	2,638	312	47	7	16	39	73	185,884
平成30年	133	36	2	7	2	86	59	2,520	219	2	5	12	30	74	271,756
令和元年	93	26	3	5	1	58	53	2,548	237	72	6	9	19	45	190,894
令和2年	87	27	2	7	1	50	45	1,272	151	51	2	8	14	35	122,069
令和3年	86	26	5	7	1	47	48	3,076	232	25	3	3	21	64	301,200
令和4年	119	33	7	6		73	51	2,098	363	28	3	10	21	47	138,384



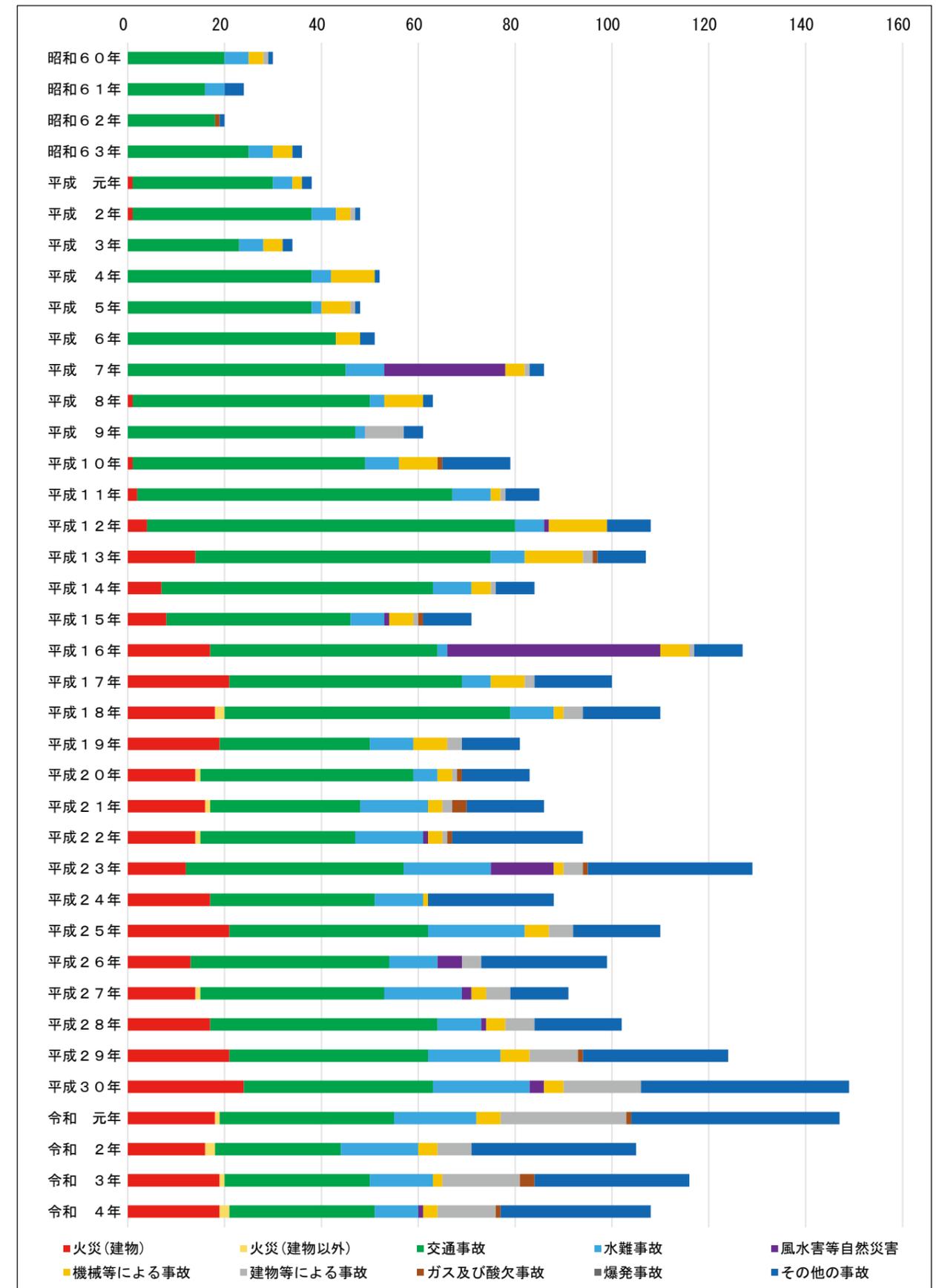
救急出場件数の推移

種別 年別	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
昭和48年	413			8	111	15	4	72	9	7	175	12
昭和49年	1,043	1	2	9	313	35	6	157	15	17	422	66
昭和50年	1,354	4		17	402	60	17	178	9	24	481	162
昭和51年	1,422	3		15	417	59	14	191	25	22	492	184
昭和52年	1,522	1		8	434	61	20	223	14	36	559	166
昭和53年	1,618	8		12	483	57	13	245	15	22	578	185
昭和54年	1,719	6	2	6	454	67	19	270	18	17	693	167
昭和55年	1,994	8	1	18	518	63	12	281	26	27	786	254
昭和56年	2,081	8		13	533	78	16	297	19	21	893	203
昭和57年	2,245	2		25	587	56	15	335	30	28	933	234
昭和58年	2,445	1	1	6	578	48	12	342	34	26	1,084	313
昭和59年	2,516	9		15	618	64	15	335	36	28	1,104	292
昭和60年	2,537	8		13	641	66	16	332	29	23	1,185	224
昭和61年	2,591	4		18	609	49	21	350	24	45	1,192	279
昭和62年	2,596	2		15	604	71	13	330	20	44	1,195	302
昭和63年	2,673	7		12	613	69	15	310	31	31	1,222	363
平成元年	2,748	11	1	9	656	59	19	324	24	39	1,280	326
平成2年	2,845	4		13	645	55	23	340	32	25	1,392	316
平成3年	2,953	4	3	11	666	56	14	365	32	40	1,440	322
平成4年	2,997	3		5	741	49	17	346	39	33	1,440	324
平成5年	3,218	10		12	743	56	22	410	25	34	1,571	335
平成6年	3,244	6		11	698	73	18	403	30	33	1,597	375
平成7年	3,656	6	35	14	736	84	13	444	18	31	1,784	491
平成8年	3,525	4	1	9	707	80	17	406	23	30	1,774	474
平成9年	3,600	5		9	685	77	15	448	23	27	1,810	501
平成10年	4,266	10		13	771	78	14	621	27	44	2,129	559
平成11年	4,056	7	1	13	677	81	21	535	31	51	2,053	586
平成12年	4,539	17		9	800	75	17	599	28	42	2,313	639
平成13年	4,421	10		17	729	64	17	572	27	53	2,272	660
平成14年	4,458	15		16	667	53	24	611	33	54	2,324	661
平成15年	4,832	12		14	661	61	31	634	27	44	2,683	665
平成16年	5,142	8	15	15	737	62	32	716	18	50	2,726	763
平成17年	5,330	7		12	658	50	52	769	27	51	2,926	778
平成18年	5,486	9		13	701	48	43	781	15	79	3,032	765
平成19年	5,239	14		18	611	59	37	768	27	87	2,915	703
平成20年	5,175	28		11	577	38	39	790	26	70	2,879	717
平成21年	5,289	34		22	606	41	29	809	7	52	2,972	717
平成22年	5,589	27		18	594	45	55	855	27	53	3,159	756
平成23年	5,688	29		21	545	45	35	914	20	60	3,226	793
平成24年	5,919	24		22	559	51	41	955	22	65	3,341	839
平成25年	6,051	29	6	21	612	63	49	949	24	45	3,427	826
平成26年	6,034	28		18	552	56	45	928	22	45	3,560	780
平成27年	6,168	22	1	24	559	38	39	1,005	29	54	3,600	797
平成28年	6,163	22	1	19	544	65	45	976	18	42	3,570	861
平成29年	6,275	29		30	572	65	42	1,047	9	46	3,508	927
平成30年	6,851	38	9	28	532	64	38	1,170	17	49	4,000	906
令和元年	6,534	26		28	532	67	40	1,112	19	45	3,819	846
令和2年	5,520	23		16	420	78	33	965	18	42	3,201	724
令和3年	5,739	23		17	441	67	22	958	17	56	3,410	728
令和4年	6,728	32	3	15	429	62	49	1,201	12	55	4,073	797



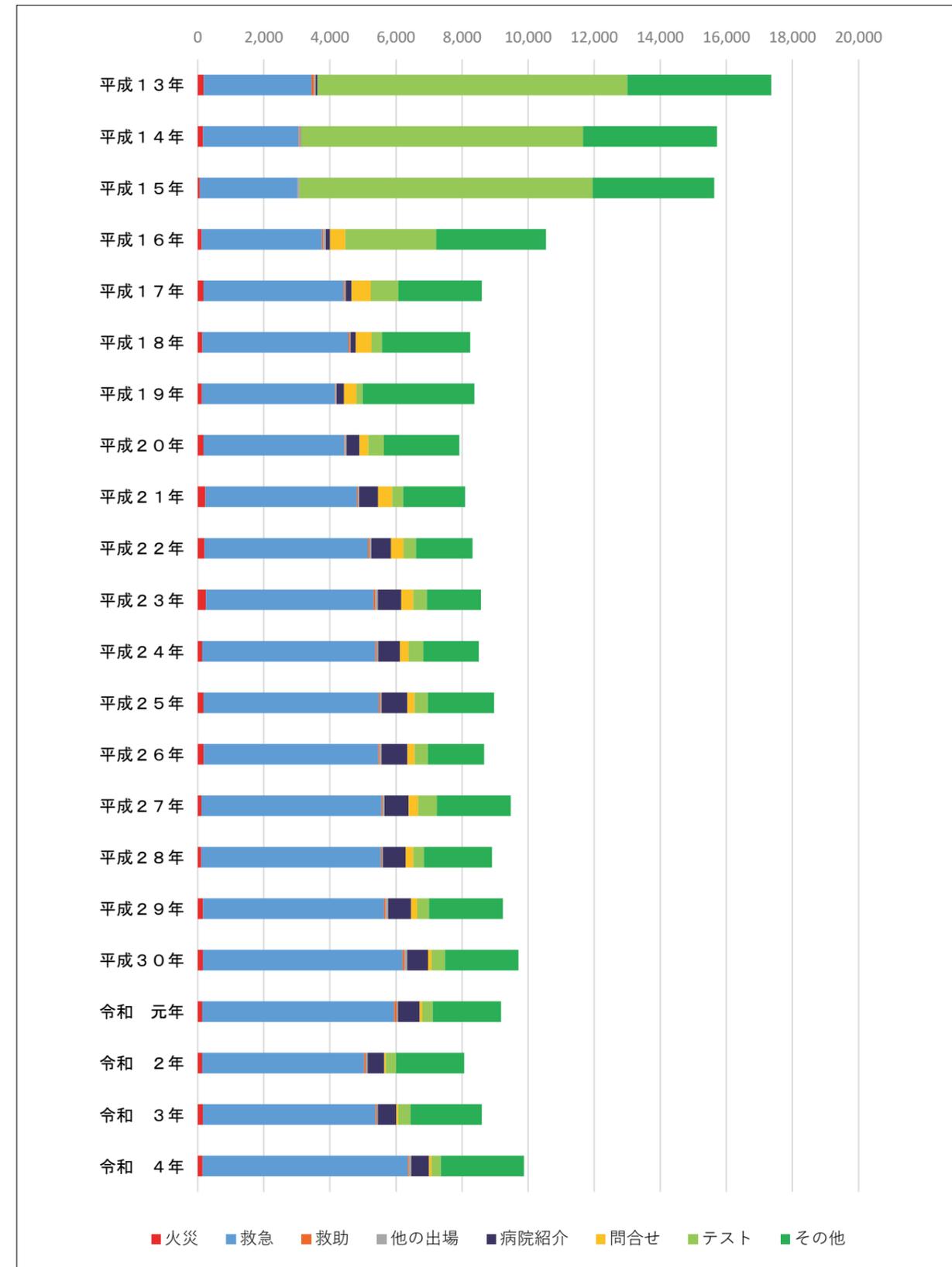
救助出動件数の推移

種別 年別	合計	火災(建物)	火災(建物以外)	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械等による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他の事故
昭和60年	30			20	5		3	1			1
昭和61年	24			16	4						4
昭和62年	20			18					1		1
昭和63年	36			25	5		4				2
平成元年	38	1		29	4		2				2
平成2年	48	1		37	5		3	1			1
平成3年	34			23	5		4				2
平成4年	52			38	4		9				1
平成5年	48			38	2		6	1			1
平成6年	51			43			5				3
平成7年	86			45	8	25	4	1			3
平成8年	63	1		49	3		8				2
平成9年	61			47	2			8			4
平成10年	79	1		48	7		8		1		14
平成11年	85	2		65	8		2	1			7
平成12年	108	4		76	6	1	12				9
平成13年	107	14		61	7		12	2	1		10
平成14年	84	7		56	8		4	1			8
平成15年	71	8		38	7	1	5	1	1		10
平成16年	127	17		47	2	44	6	1			10
平成17年	100	21		48	6		7	2			16
平成18年	110	18	2	59	9		2	4			16
平成19年	81	19		31	9		7	3			12
平成20年	83	14	1	44	5		3	1	1		14
平成21年	86	16	1	31	14		3	2	3		16
平成22年	94	14	1	32	14	1	3	1	1		27
平成23年	129	12		45	18	13	2	4	1		34
平成24年	88	17		34	10		1				26
平成25年	110	21		41	20		5	5			18
平成26年	99	13		41	10	5		4			26
平成27年	91	14	1	38	16	2	3	5			12
平成28年	102	17		47	9	1	4	6			18
平成29年	124	21		41	15		6	10	1		30
平成30年	149	24		39	20	3	4	16			43
令和元年	147	18	1	36	17		5	26	1		43
令和2年	105	16	2	26	16		4	7			34
令和3年	116	19	1	30	13		2	16	3		32
令和4年	108	19	2	30	9	1	3	12	1		31



災害別 119番受信状況

年	種別	火災	救急	救助	他の出場	病院紹介	問合せ	テスト	その他	合計
平成13年		185	3,258	79	50	51		9,379	4,354	17,356
平成14年		159	2,896	30	41	6		8,530	4,055	15,717
平成15年		65	2,959	9	42	3		8,876	3,682	15,636
平成16年		117	3,641	35	86	126	461	2,750	3,325	10,541
平成17年		177	4,235	33	36	173	586	833	2,528	8,601
平成18年		142	4,420	42	28	149	481	313	2,670	8,245
平成19年		124	4,032	26	22	221	376	195	3,376	8,372
平成20年		174	4,265	22	42	391	271	469	2,286	7,920
平成21年		234	4,586	33	36	569	423	339	1,872	8,092
平成22年		205	4,948	43	58	593	382	381	1,707	8,317
平成23年		243	5,080	53	76	707	366	412	1,632	8,569
平成24年		133	5,248	32	52	660	254	445	1,682	8,506
平成25年		173	5,313	40	43	775	219	403	2,003	8,969
平成26年		184	5,286	40	55	783	216	398	1,705	8,667
平成27年		114	5,447	27	63	734	284	571	2,237	9,477
平成28年		105	5,438	28	35	685	229	327	2,061	8,908
平成29年		158	5,483	50	72	698	184	354	2,236	9,235
平成30年		157	6,040	66	75	630	112	400	2,230	9,710
令和元年		134	5,816	72	41	657	74	318	2,068	9,180
令和2年		132	4,905	45	60	506	49	303	2,064	8,064
令和3年		154	5,224	33	40	562	51	376	2,157	8,597
令和4年		147	6,211	36	71	534	76	285	2,514	9,874



防火対象物の現況

(棟別：150㎡以上（17項を除く）)

別表用途		構成市			洲本市			南あわじ市			淡路市			合計		
		S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5
1	イ 劇場、映画館、演劇場又は観覧場	5	2	4			2		1	7	5	3	13			
	ロ 公会堂又は集会場	37	42	76	111	55	99	125	40	71	273	137	246			
2	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	5	2					3	2		8	4				
	ロ 遊技場又はダンスホール	11	6	3	4	10		5	6	5	20	22	8			
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗															
	ニ カラオケボックス等															
3	イ 待合、料理店等	8	4		21	7		8	1		37	12				
	ロ 飲食店	9	14	33	216	14	31	25	15	62	250	43	126			
4	百貨店、マーケット等店舗又は展示場	5	29	60	14	51	81	27	46	76	46	126	217			
5	イ 旅館、ホテル、宿泊所等	142	136	61	73	129	74	96	124	87	311	389	222			
	ロ 寄宿舍、下宿又は共同住宅	71	216	401	7	107	225	21	143	275	99	466	901			
6	イ 病院、診療所又は助産所	37	33	25	8	14	25	20	21	19	65	68	69			
	ロ 老人短期入所施設等	8	39	17	6	31	18	12	47	18	26	117	53			
	ハ 老人デイサービスセンター等			43			44			44			131			
ニ 幼稚園又は特別支援学校	22	12	10	26	6	4	18	2		66	20	14				
7	小・中・高等学校、大学、各種学校等	35	91	68	38	81	69	34	92	65	107	264	202			
8	図書館、博物館、美術館等	1	1	3	2	2	5	4	4	11	7	7	19			
9	イ 公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等															
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	21	6	4	11	5	5	31	8	6	63	19	15			
10	車両の停車場又は船舶等の発着場	4	1	1	3		4	1	2	3	8	3	8			
11	神社、寺院、教会等	52	27	47	111	51	49	53	19	27	216	97	123			
12	イ 工場又は作業場	143	275	222	45	682	350	90	296	300	278	1,253	872			
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ						1						1			
13	イ 自動車車庫又は駐車場	42	26	42	6	12	21	2	12	12	50	50	75			
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫															
14	倉庫	31	104	129	45	241	249	51	112	149	127	457	527			
15	前各項に該当しない事業場	89	157	210	64	122	239	83	161	258	236	440	707			
16	イ 複合用途防火対象物（一部特定防火対象物）	1	119	153		105	125	26	113	149	27	337	427			
	ロ イに掲げる以外の複合用途防火対象物		22	54		34	30		30	67		86	151			
16の2	地下街															
16の3	準地下街															
17	重要文化財等	8	1	3		5	2	8	2	3	16	8	8			
18	延長50メートル以上のアーケード	3	2	3			0	1			4	2	3			
19	市町村長の指定する山林															
20	総務省令で定める舟車															
合計		790	1,367	1,672	811	1,764	1,752	744	1,299	1,714	2,345	4,430	5,138			

危険物施設の現況

区分		構成市			洲本市			南あわじ市			淡路市			合計		
		S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5	S48	H5	R5
貯蔵所	屋内貯蔵所	25	23	15	13	15	11	15	15	16	53	53	42			
	屋外タンク貯蔵所	37	31	24	110	98	58	33	45	55	180	174	137			
	屋内タンク貯蔵所	4	8	7	1	4	5	1	9	4	6	21	16			
	地下タンク貯蔵所	32	59	22	17	45	36	26	44	38	75	148	96			
	簡易タンク貯蔵所	11	1	1					1		11	2	1			
	移動タンク貯蔵所	10	23	16	38	79	53	14	49	38	62	151	107			
	屋外貯蔵所	3	3	1	1	3	3	1		14	5	6	18			
小計	122	148	86	180	244	166	90	163	165	392	555	417				
取扱所	給油取扱所	38	51	35	43	54	44	28	37	34	109	142	113			
	一般取扱所	21	13	13	36	45	34	23	27	31	80	85	78			
	第1種販売取扱所		1	1								1	1			
	第2種販売取扱所	1	3								1	3				
	移送取扱所					1	1					1	1			
小計	60	68	49	79	100	79	51	64	65	190	232	193				
合計		182	216	135	259	344	245	141	227	230	582	787	610			



～安全・安心 つながる未来へ～

淡路広域消防事務組合 消防50年のあゆみ

淡路広域消防事務組合
消防50年のあゆみ編集委員会

立花	正明	松下	文吾
中田	敏弘	細川	英年
田村	智啓	田村	聡之
森口	真州	山本	憲生
岡	晋伍	中田	竜樹



(発行) 淡路広域消防事務組合

〒656-0021

兵庫県洲本市塩屋一丁目2番32号

(TEL) 0799-24-0119

(FAX) 0799-24-4575

(URL) <http://www.awajifire.jp/>

(印刷) 株式会社 奥井印刷

〒656-0513

兵庫県南あわじ市賀集野田459番地1

発行日 令和5年10月吉日

